

持続可能な都市検討部会

本プランの策定にあたり、平成29年3月から、京都市都市計画審議会に「持続可能な都市検討部会」を設置し、以下のとおり検討を行いました。

| 開催日 | 会議名称 | 主な議題 |
|-----------------|--------------------|---|
| 平成29年 6月21日 | 第1回 持続可能な都市検討部会 | ・京都市の現状について ・持続可能な都市の構築に向けた検討の視点について |
| 平成29年 10月4日 | 第2回 持続可能な都市検討部会 | ・課題と論点整理について ・人口に係る検討について |
| 平成29年 11月10日 | 第3回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市の構築に向けた課題の検討 (産業・働く場等)について |
| 平成30年 2月2日 | 第4回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市の構築の方向性等について |
| 平成30年 3月22日 | 第5回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市の構築の方向性等について |
| 平成30年 6月27日 | 第6回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市構築プラン(仮称)の方向性について |
| 平成30年 7月27日 | 第7回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市構築プラン(仮称)の方向性等について(中間とりまとめ) |
| 平成30年 12月4日 | 第8回 持続可能な都市検討部会 | ・持続可能な都市構築プラン(仮称)の方向性等について |

委員名簿

| 氏名 | 所属・役職等 | 備考 |
|--------|---------------------------|------|
| 板谷 直子 | 立命館大学客員研究員 | |
| 奥原 恒興 | 京都商工会議所専務理事 | ～第5回 |
| 川崎 雅史 | 京都大学大学院教授 | 部会長 |
| 兒島 宏尚 | 京都商工会議所専務理事 | 第7回～ |
| 小原 雅人 | 市民公募委員 | |
| 佐藤 由美 | 奈良県立大学准教授 | |
| 島田 洋子 | 京都大学大学院准教授 | |
| 須藤 陽子 | 立命館大学教授 | |
| 中嶋 節子 | 京都大学大学院教授 | |
| 八田 真理子 | 市民公募委員 | |
| 葉山 勉 | 京都精華大学教授 | |
| 牧 紀男 | 京都大学教授 | |
| 宮川 邦博 | 公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター専務理事 | |

(五十音順, 敬称略)



市民意見募集

本プランの骨子(案)について、広く市民の皆様からの御意見をいただくため、以下のとおり、パブリック・コメント手続により、市民意見募集を行いました。

募集期間

平成30年9月10日(月)から平成30年10月10日(水)まで

周知方法

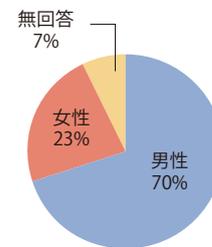
ホームページ掲載、市民意見募集冊子の配布(市役所案内所、各区役所・支所・出張所、景観・まちづくりセンター、京安心すまいセンター、各市立図書館、大学コンソーシアム京都加盟会員の42大学、建築・不動産・経済等の関係団体)等

意見募集 結果

1 性別

| 区分 | 意見書数 | 割合(%) |
|-----|------|-------|
| 男性 | 117 | 70 |
| 女性 | 38 | 23 |
| 無回答 | 12 | 7 |
| 合計 | 167 | 100 |

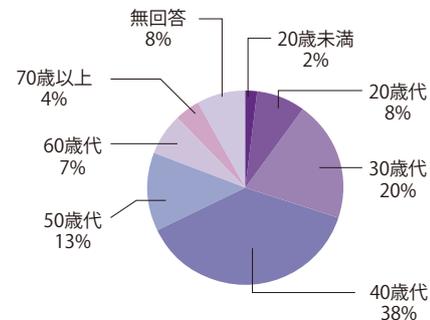
(意見数 合計 318件)



2 年齢

| 区分 | 意見書数 | 割合(%) |
|-------|------|-------|
| 20歳未満 | 4 | 2 |
| 20歳代 | 13 | 8 |
| 30歳代 | 33 | 20 |
| 40歳代 | 63 | 38 |
| 50歳代 | 21 | 13 |
| 60歳代 | 12 | 7 |
| 70歳以上 | 7 | 4 |
| 無回答 | 14 | 8 |
| 合計 | 167 | 100 |

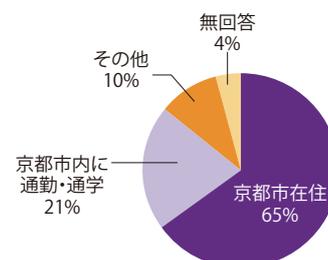
(意見数 合計 318件)



3 居住地等

| 区分 | 意見書数 | 割合(%) |
|------------|------|-------|
| 京都市在住 | 109 | 65 |
| 京都市内に通勤・通学 | 34 | 21 |
| その他 | 17 | 10 |
| 無回答 | 7 | 4 |
| 合計 | 167 | 100 |

(意見数 合計 318件)



市政総合アンケート

将来にわたって安心安全で暮らしやすく、魅力や活力のある持続可能な都市の構築を進めるプランの検討を行うための参考資料とするため、持続可能な都市の構築についてアンケート調査を行いました。

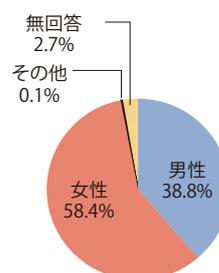
調査期間 平成30年8月9日(木)から平成30年8月23日(木)まで

調査対象 18歳以上の市民4,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

アンケート 結果

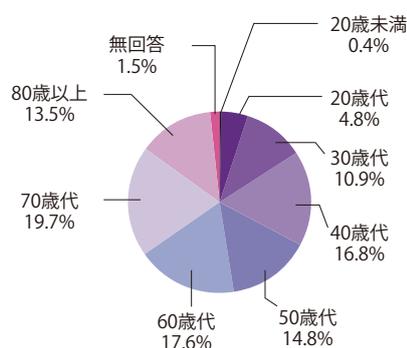
1 性別

| 区分 | 人 | 割合(%) |
|-----|------|-------|
| 男性 | 683 | 38.8 |
| 女性 | 1028 | 58.4 |
| その他 | 1 | 0.1 |
| 無回答 | 48 | 2.7 |
| 合計 | 1760 | 100.0 |



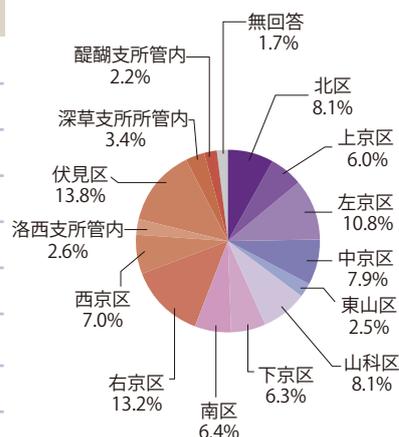
2 年齢

| 区分 | 人 | 割合(%) |
|-------|------|-------|
| 10歳代 | 7 | 0.4 |
| 20歳代 | 85 | 4.8 |
| 30歳代 | 192 | 10.9 |
| 40歳代 | 295 | 16.8 |
| 50歳代 | 261 | 14.8 |
| 60歳代 | 310 | 17.6 |
| 70歳代 | 347 | 19.7 |
| 80歳以上 | 237 | 13.5 |
| 無回答 | 26 | 1.5 |
| 合計 | 1760 | 100.0 |



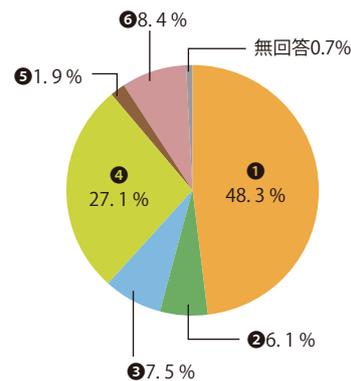
3 居住地等

| 区分 | 割合(%) | 区分 | 割合(%) |
|-----|-------|--------|-------|
| 北区 | 8.1 | 南区 | 6.4 |
| 上京区 | 6.0 | 右京区 | 13.2 |
| 左京区 | 10.8 | 西京区 | 7.0 |
| 中京区 | 7.9 | 洛西支所管内 | 2.6 |
| 東山区 | 2.5 | 伏見区 | 13.8 |
| 山科区 | 8.1 | 深草支所管内 | 3.4 |
| 下京区 | 6.3 | 醍醐支所管内 | 2.2 |
| | | 無回答 | 1.7 |



問1 京都市にお住まいになったのはいつからですか。

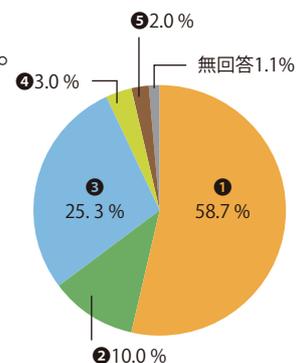
| | |
|-----------------------|-------|
| 1 生まれた時から | 48.3% |
| 2 子どもの頃(高校生時まで) | 6.1% |
| 3 大学・専門学校などへ通うため | 7.5% |
| 4 学校の卒業後, 就職や結婚などを機会に | 27.1% |
| 5 65歳以降 | 1.9% |
| 6 その他 | 8.4% |



「生まれた時から」と答えた方が全体の5割近く

問2 自宅から最寄りの鉄道駅までの主な交通手段は何ですか。

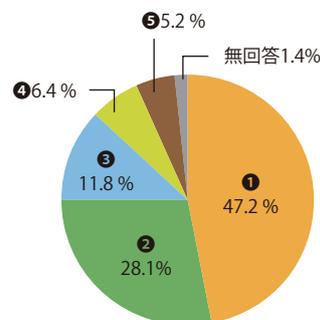
| | |
|------------|-------|
| 1 徒歩 | 58.7% |
| 2 自転車, バイク | 10.0% |
| 3 バス | 25.3% |
| 4 自家用車 | 3.0% |
| 5 その他 | 2.0% |



「徒歩」と答えた方が全体の6割近く

問3 自宅から最寄りの鉄道駅までの所要時間はどれくらいですか。

| | |
|---------|-------|
| 1 10分以内 | 47.2% |
| 2 15分以内 | 28.1% |
| 3 20分以内 | 11.8% |
| 4 30分以内 | 6.4% |
| 5 30分超 | 5.2% |

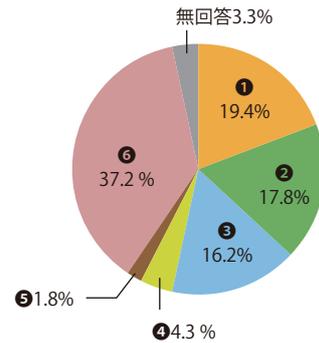


「10分以内」と答えた方が全体の5割近く

問4

自宅から職場や学校までの所要時間はどれくらいですか。
(徒歩や交通機関の利用等の合計時間)

| | | |
|---|------------------|-------|
| 1 | 15分以内 | 19.4% |
| 2 | 30分以内 | 17.8% |
| 3 | 60分以内 | 16.2% |
| 4 | 90分以内 | 4.3% |
| 5 | 90分超 | 1.8% |
| 6 | 現在、通勤・通学などはしていない | 37.2% |

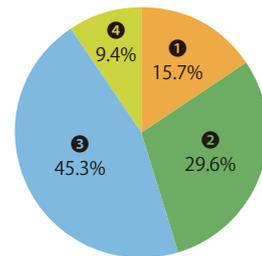


30分以内の方が全体の4割近く

問5

日常生活の中で、お住まいの地域では人口が減少していると感じますか。

| | | |
|---|---------------|-------|
| 1 | 大いに感じる | 15.7% |
| 2 | やや感じる | 29.6% |
| 3 | あまり感じない | 45.3% |
| 4 | 人口は増加していると感じる | 9.4% |

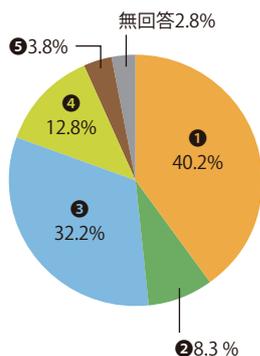


「大いに感じる」又は「やや感じる」と答えた方と
「あまり感じない」と答えた方の割合が
それぞれ同じ全体の4割強

問6

(問5で「1 大いに感じる」又は「2 やや感じる」と回答いただいた方)
人口の減少をどのような場面で最も感じますか。

| | |
|------------------------------------|-------|
| 1 近所の子どもや知り合いの数が少なくなったと感じるとき | 40.2% |
| 2 身近な商店や病院などの生活に必要な施設が少なくなったと感じるとき | 8.3% |
| 3 空き家や空き地が増えたと感じるとき | 32.2% |
| 4 地域の行事や自治会の活動などが活発でなくなったと感じるとき | 12.8% |
| 5 その他 | 3.8% |

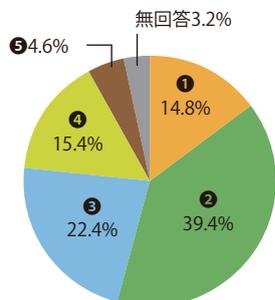


「近所の子どもや知り合いの数が少なくなったと感じるとき」と答えた方が全体の約4割

問7

将来、人口の減少が進むと、税や社会保障を支える担い手が不足するなどの心配がありますが、その他どのようなことが心配になるとお考えですか。

| | |
|------------------------------|-------|
| 1 近所の子どもや知り合いの数が少なくなること | 14.8% |
| 2 身近な商店や病院など生活に必要な施設が少なくなること | 39.4% |
| 3 空き家や空き地が増えること | 22.4% |
| 4 地域の行事や自治会の活動などが活発でなくなること | 15.4% |
| 5 その他 | 4.6% |



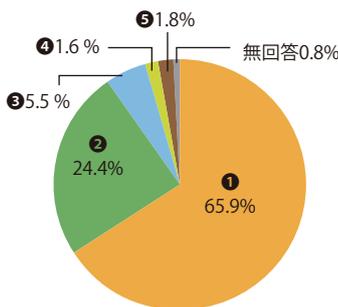
「身近な商店や病院などの生活に必要な施設が少なくなること」と答えた方が全体の4割近く

問8

これからも京都市に住み続けたいですか。

なお、将来的に市外への転出を予定されている方については、現時点でのお考えをお答えください。

| | |
|-----------------------|-------|
| 1 住み続けたいと思う | 65.9% |
| 2 どちらかと言えば住み続けたいと思う | 24.4% |
| 3 どちらかと言えば住み続けたくないと思う | 5.5% |
| 4 住み続けたくないと思う | 1.6% |
| 5 その他 | 1.8% |



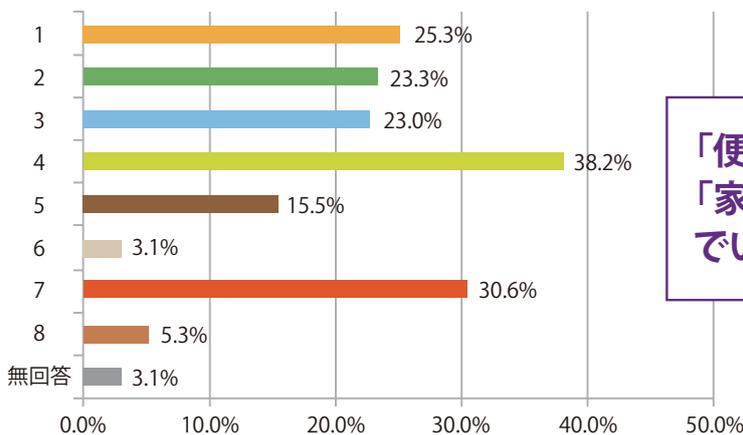
「住み続けたいと思う」又は「どちらかと言えば住み続けたいと思う」と答えた方が約9割

問9

(問8で「1 住み続けたいと思う」又は「2どちらかと言えば住み続けたいと思う」と回答いただいた方)

京都市に住み続けたいと思われる理由は何ですか。(複数回答)

| | |
|-----------------------------------|-------|
| 1 京都に住んでいることに誇りを感じるから | 25.3% |
| 2 豊かな自然や美しい街並みがあるから | 23.3% |
| 3 受け継がれてきた歴史や文化, 伝統産業, 多くの大学があるから | 23.0% |
| 4 便利で暮らしやすいから | 38.2% |
| 5 近くに仕事をする場所や, 学校があるから | 15.5% |
| 6 地域のつながりやコミュニティに魅力を感じるから | 3.1% |
| 7 家族や友人が近くに住んでいるから | 30.6% |
| 8 その他 | 5.3% |



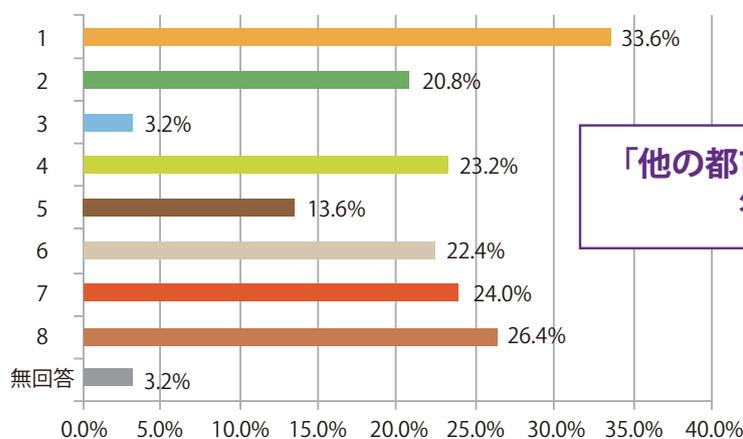
「便利で暮らしやすいから」, 「家族や友人が近くに住んでいるから」の順に多く回答

問10

(問8で「3 どちらかと言えば住み続けたくないと思う」又は「4 住み続けたくないと思う」と回答いただいた方)

京都市に住み続けたくないと思われる理由は何ですか。(複数回答)

| | | |
|---|---------------------------|-------|
| 1 | 他の都市の方が魅力的だから | 33.6% |
| 2 | 不便で暮らしにくいから | 20.8% |
| 3 | 近くに仕事をする場所や、学校がないから | 3.2% |
| 4 | 地域のつながりやコミュニティに魅力を感じないから | 23.2% |
| 5 | 家族や友人が近くに住んでいないから | 13.6% |
| 6 | 住宅の広さや価格などが条件に合わないから | 22.4% |
| 7 | 京都を訪れる観光客が増えて生活に支障が出ているから | 24.0% |
| 8 | その他 | 26.4% |

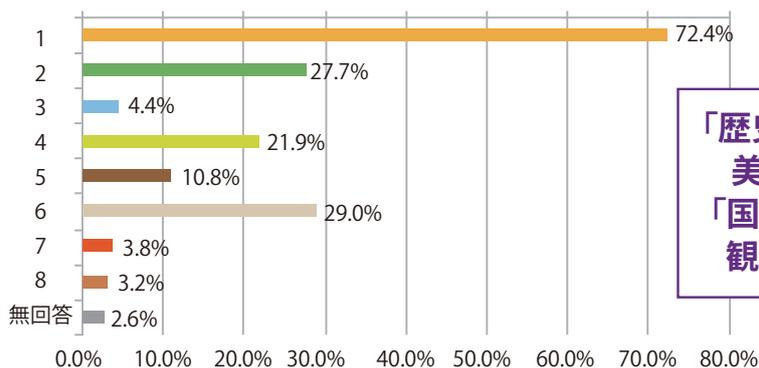


「他の都市の方が魅力的だから」と
答えた方が約3割

問11

京都にお住まいになって、まちの魅力や誇りとして感じることは何ですか。(複数回答)

| | | |
|---|--------------------------------|-------|
| 1 | 歴史・文化, 豊かな自然環境, 美しい街並みがあるまち | 72.4% |
| 2 | 日常生活の利便性が高いまち | 27.7% |
| 3 | 賑わいや活気があるまち | 4.4% |
| 4 | 伝統産業から先端産業までの付加価値の高い「ものづくり」のまち | 21.9% |
| 5 | 国内外から多くの学生・研究者が集まる大学のまち | 10.8% |
| 6 | 国内外から多くの人を訪れる観光のまち | 29.0% |
| 7 | 地域のつながりやコミュニティが活発なまち | 3.8% |
| 8 | その他 | 3.2% |

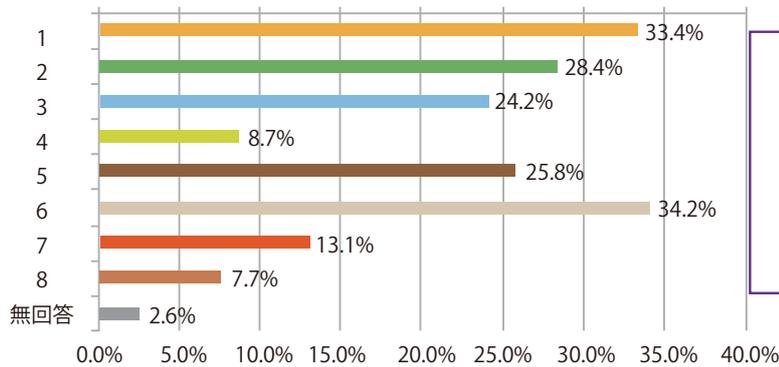


「歴史・文化, 豊かな自然環境,
美しい街並みがあるまち」,
「国内外から多くの人を訪れる
観光のまち」の順に多く回答

問12

京都市にお住まいになって、現在、まちの課題として感じていることは何ですか。
(複数回答)

| | | |
|---|------------------------------|-------|
| 1 | 京都の歴史・文化の次の世代への継承 | 33.4% |
| 2 | 空き家の増加や京町家の減少 | 28.4% |
| 3 | 日常生活の利便性の維持 | 24.2% |
| 4 | まちの賑わいや活気づくり | 8.7% |
| 5 | 伝統産業も含めた産業の振興と市内での安定した働く場の確保 | 25.8% |
| 6 | 京都を訪れる来訪者と市民生活との調和 | 34.2% |
| 7 | 地域のつながりやコミュニティの維持 | 13.1% |
| 8 | その他 | 7.7% |

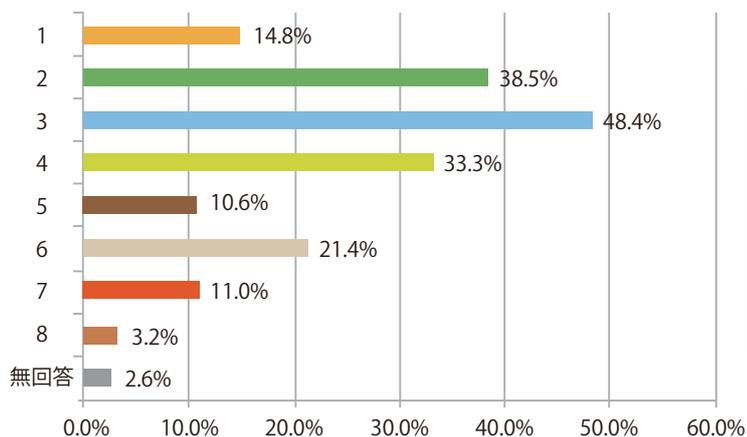


「京都を訪れる来訪者と市民生活との調和」,
「京都の歴史・文化の次の世代への継承」の順に多く回答

問13

将来にわたって、魅力と活力あるまちであり続けるために重要なことは何と
思われますか。(複数回答)

| | | |
|---|----------------------------------|-------|
| 1 | 人口の市外への流出や、人口減少に歯止めをかける | 14.8% |
| 2 | 京都ならではの歴史や文化、大学、伝統産業の魅力をさらに高める | 38.5% |
| 3 | 良好な居住環境を確保し、日常生活の利便性を維持する | 48.4% |
| 4 | 地域ぐるみの子育て支援など、子育て・教育環境の充実を図る | 33.3% |
| 5 | 大都市としての機能を高め、まちの活気や賑わいを高める | 10.6% |
| 6 | 産業を振興し、安定した働く場を増やす | 21.4% |
| 7 | 三山をはじめ京都の自然を守り、山間部と都市部の交流の機会を増やす | 11.0% |
| 8 | その他 | 3.2% |



「良好な居住環境を確保し、日常生活の利便性を維持する」,
「京都ならではの歴史や文化、大学、伝統産業の魅力をさらに高める」の順に多く回答

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

データ集

(1) 本市の概況

- 京都府の南部に位置し、市域面積は約82,790ha、平成27年現在人口は約147万人を有し、京都府の人口の約57%を占めています。
- 京都市を中心として、京都府南部や滋賀県南西部に及ぶ京都都市圏を形成するとともに、近畿地方の大都市の一つとして、京阪神大都市圏を形成しています。
- 1200年を超える長い歴史を持つ歴史都市であり、平安京造営の際の碁盤目状の道路構成や豊臣秀吉による短冊街区の形成を基礎として、近代に至るまで、時代に応じた都市基盤が形成され、それが今日でも重要な都市の基盤を成しています。
- 永い歳月の中で、市街地の周囲を取り囲む三方の山々や鴨川、桂川に代表される山紫水明と称される豊かな自然が生まれ、古くから自然環境と共生する生活が営まれています。
- 三方を山々に囲まれた地理的条件や、早くからの風致地区の指定などの取組により、市街地の拡大は限定され、まとまりのある市街地が形成されています。
- 伝統産業から先端産業、中小企業から世界的な大企業まで、多様な産業が集積するものづくり都市であり、また、市内に38の大学・短期大学が立地し、人口の約1割、約14万人の学生を擁する「大学のまち」です。
- C O P 3「京都議定書」誕生の地であるほか、平成28年現在、国内外から年間5千万人を超える観光客が来訪する国際都市です。



図 1. 京都市の位置

(2) 人口

- ・ 京都市の総人口は、昭和40年代以降147万人前後で推移していますが、今後は人口減少が進むことが推計されています。
- ・ 少子高齢化の進展に伴い、当面は、高齢者人口の増加が大きな課題となり、更に将来的には、生産年齢人口の減少が見込まれます。
- ・ 行政区別の人口推移は、周辺部で減少傾向となっています。
- ・ 人口の推移では、地域間で進行度合いに差がみられ、周辺部において減少が顕著となっています。
- ・ 人口集中地区は、市街化区域とほぼ同じ大きさとなっており、約98人/haと高い人口密度を保っています。
- ・ 転入・転出では、本市全体では転入超過ですが、国外からを除くと転出超過に、また、東京圏、大阪府、京都府南部、滋賀県に対しては転出超過となっています。
- ・ 転出先としては、大学卒業から就職のタイミングである20歳代の世代が、東京都・大阪府に、結婚・子育て・住宅購入のタイミングである30歳代の世代が、大阪府・滋賀県・京都府南部に転出超過となっています。
- ・ 一方で、国内外から年間5千万人を超える観光客が来訪するほか、約8千人の留学生が市内の大学等に在籍するなど、多くの交流人口が市内で活動しています。
- ・ 沿線の地価やマンション価格は、近郊都市や沿線都市と比べて、京都市内が高い傾向となっています。

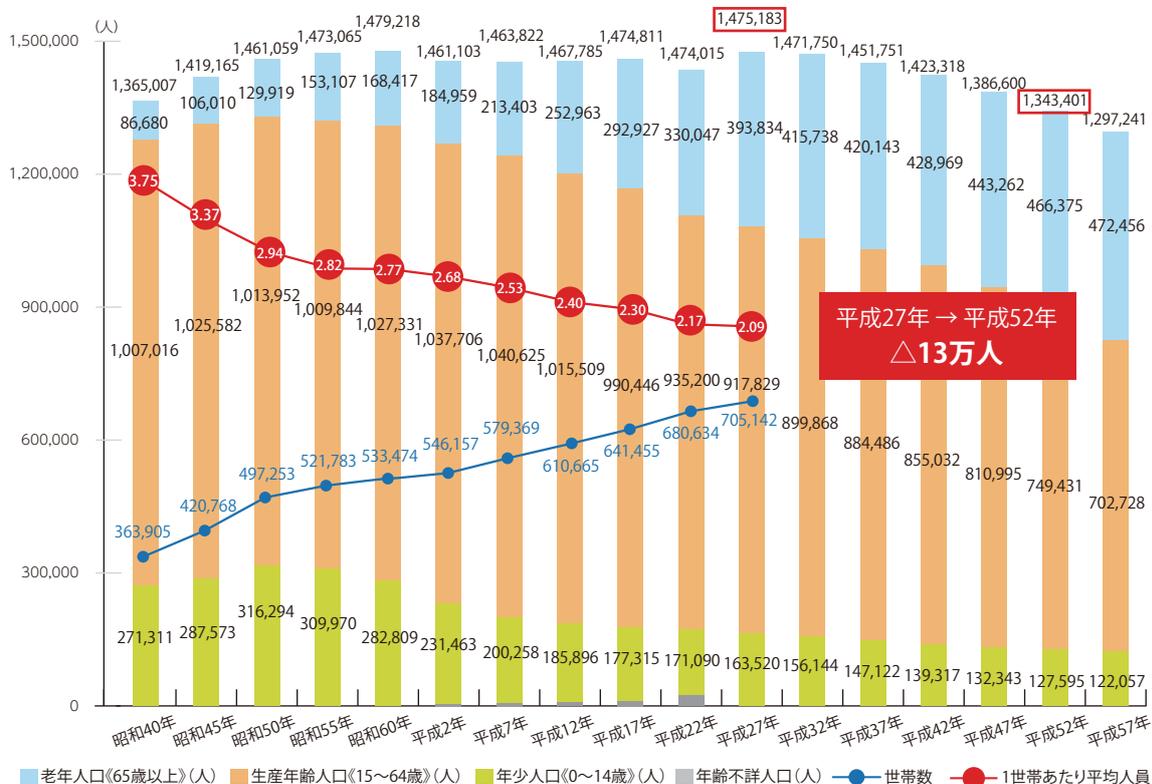


図 2.人口の推移

資料) 総務省「国勢調査(平成27年まで)」
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口
 (平成30年3月推計)」(平成32年以降)

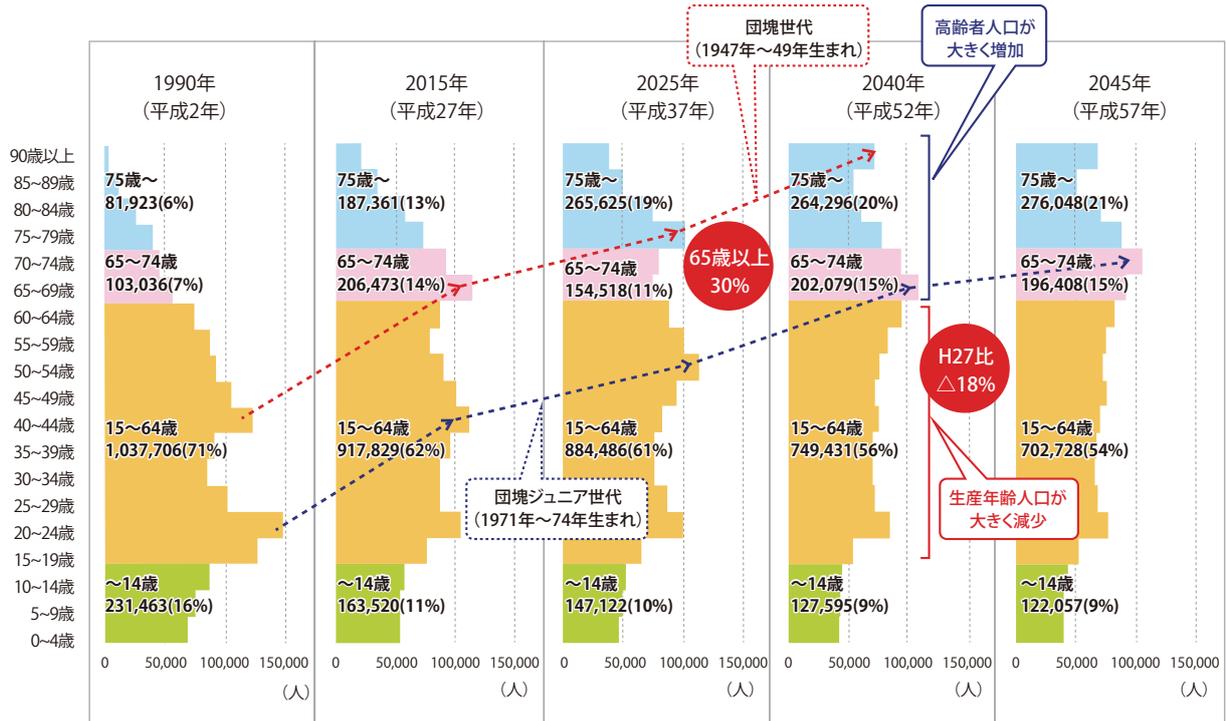
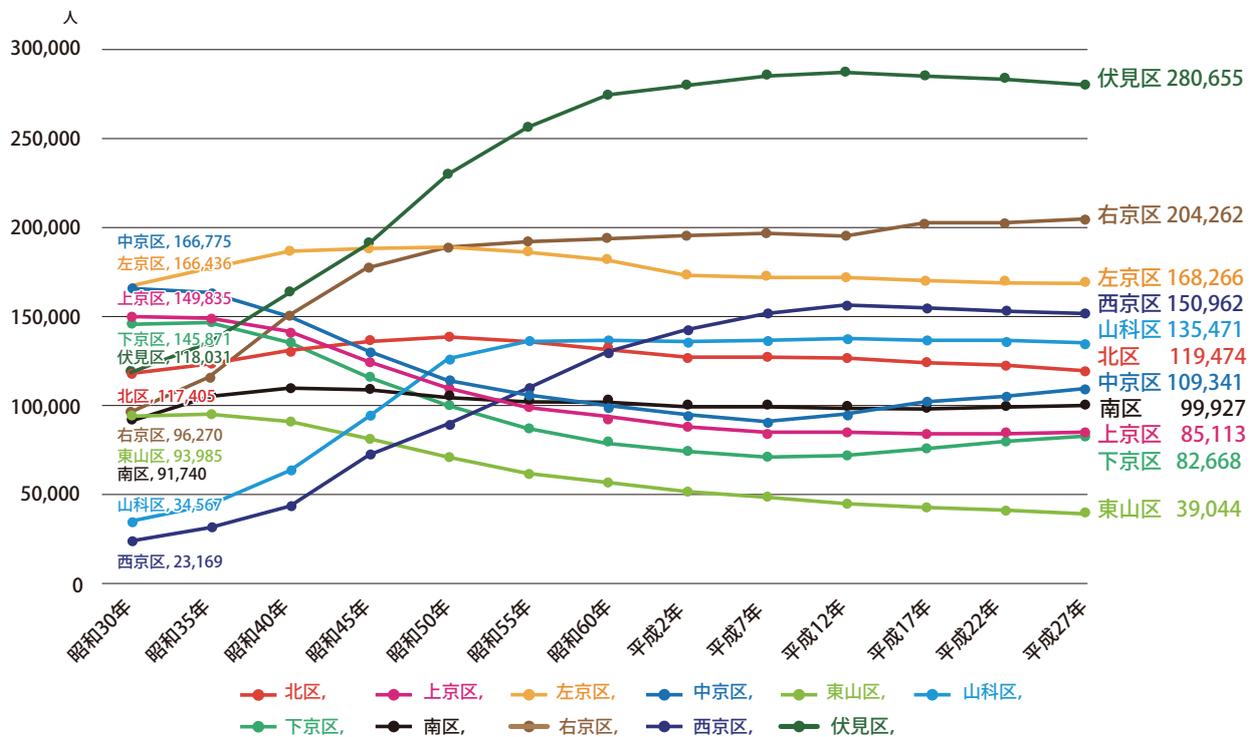


図 3. 行政区別の人口の増減

資料) 総務省「国勢調査(平成2年, 平成27年)」国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」



* 東山・山科区, 右京・西京区の昭和50年までの数値は, 分区前の各区域内の国勢統計区の値を掲載。
右京区の平成17年からの数値は, 京北地域を含んだ値を掲載。

図 4. 行政区別の人口の推移(昭和 30 年~平成 27 年)

資料) 総務省「国勢調査」

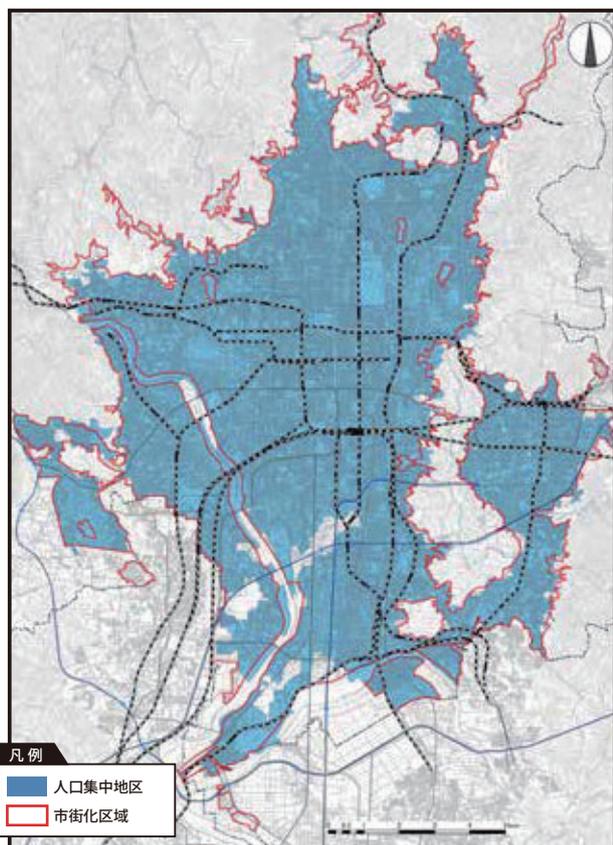


図 5. 人口集中地区の状況(平成 27年)
資料) 国土交通省「国土数値情報 (DID人口集中地区)」

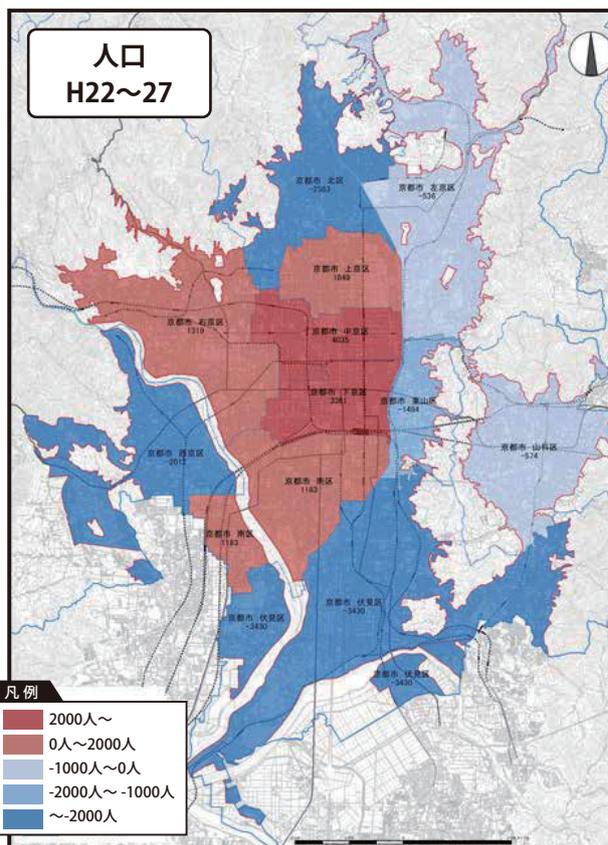


図 6. 行政区別の人口の増減
資料) 総務省「国勢調査(平成 22 年, 平成 27 年)」

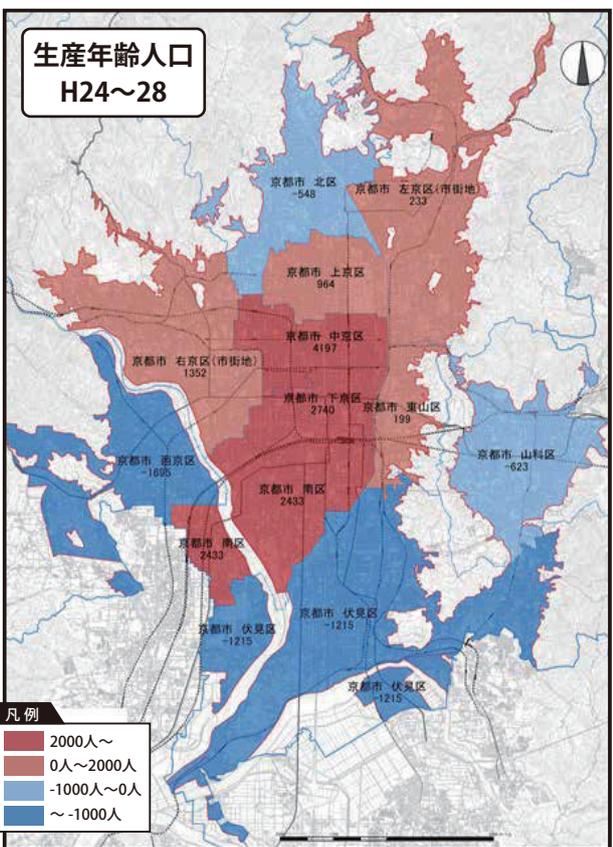


図 7. 行政区別の生産年齢人口, 高齢者人口の増減
資料) 京都市「住民基本台帳(平成 24 年, 平成 28 年)」

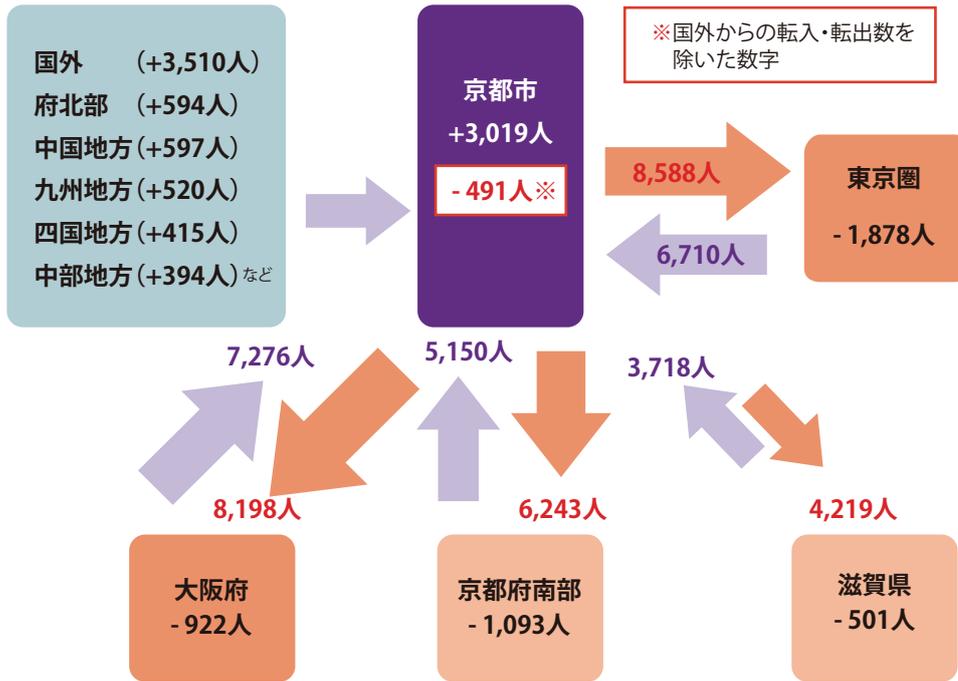


図 8. 東京圏, 近隣市町への転出超過

資料) 京都市「住民基本台帳(平成28年)」

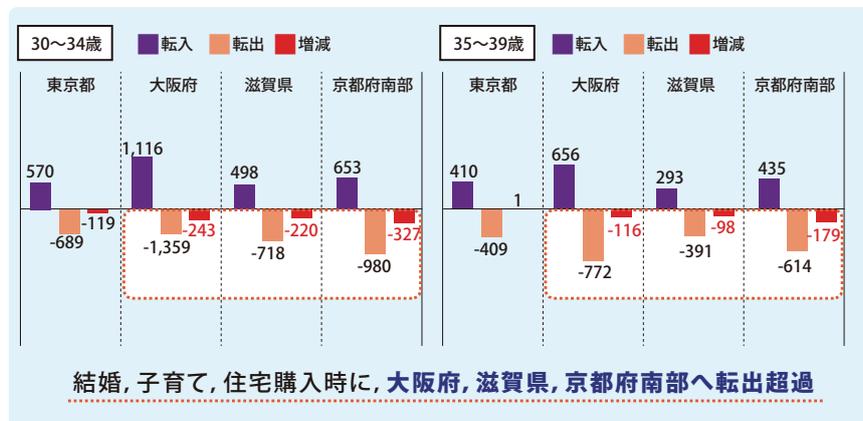
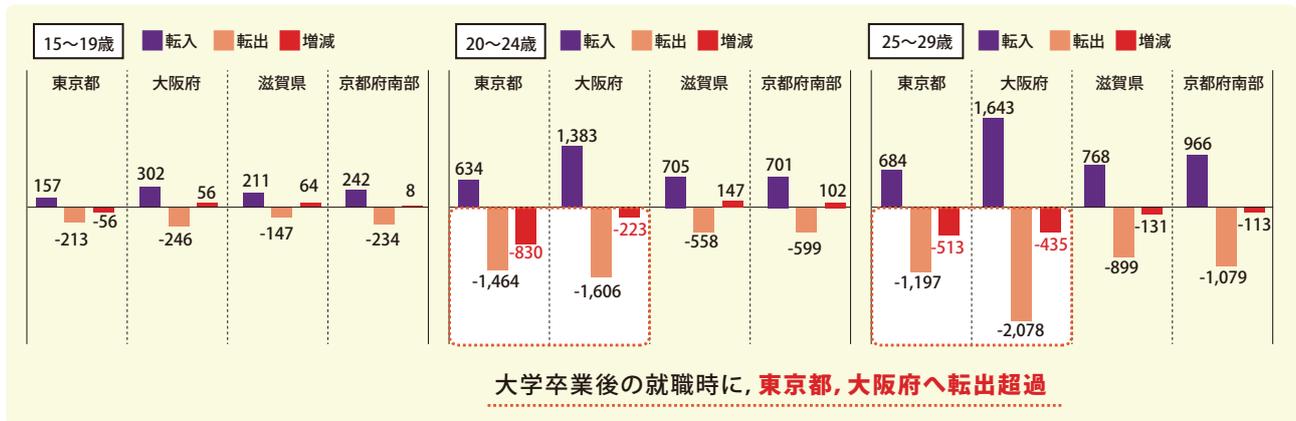


図 9. 就職, 結婚・子育て世代の転出超過

資料) 京都市「住民基本台帳(平成28年)」

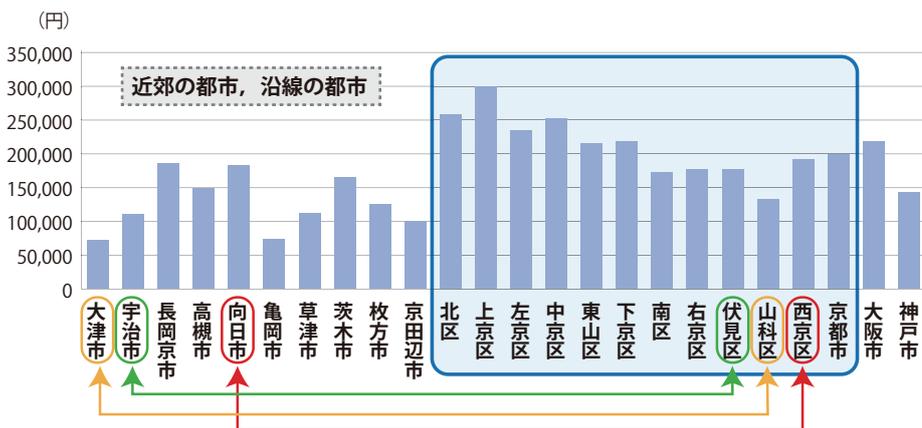


図 10.地価公示(住宅地平均額)の比較(平成28年)

資料)国土交通省「地価公示」

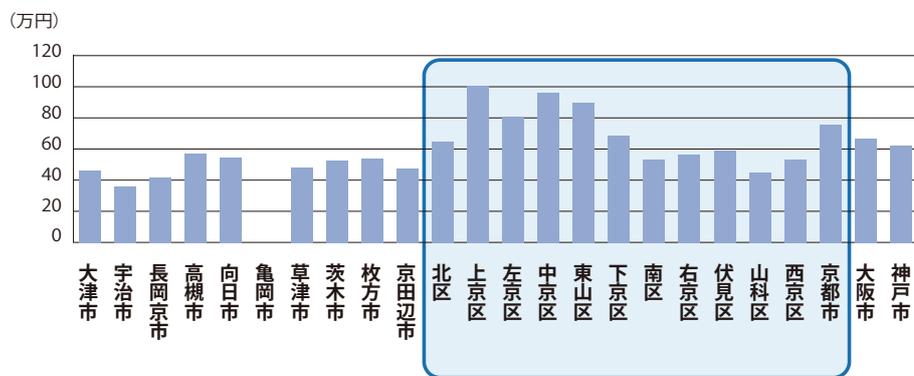


図 11.マンション平均価格(m²単価)の比較(平成28年)

資料)不動産経済研究所「全国マンション市場動向」

(3) 住宅・空き家

- 本市の住宅の約30%は耐震基準が古い昭和55年以前に建築されています。木造住宅では40%を超えています。また、昭和25年以前の木造戸建住宅(京町家等)の割合が12.4%と、全国平均の6.0%を大きく上回っており、建築時期が古い木造戸建住宅が多いことが特徴となっています。
- 本市の空き家率は14%と、全国平均(13.5%)や、政令市平均(13.0%)を上回っています。
- 行政区別の空き家率は、東山区が最も高く、次いで南区、北区、伏見区の順に高くなっています。
- 空き家の種類別では、本市は他政令市の平均に比べ、市場に流通していない住宅、特に一戸建て、長屋建ての割合が多くなっています。

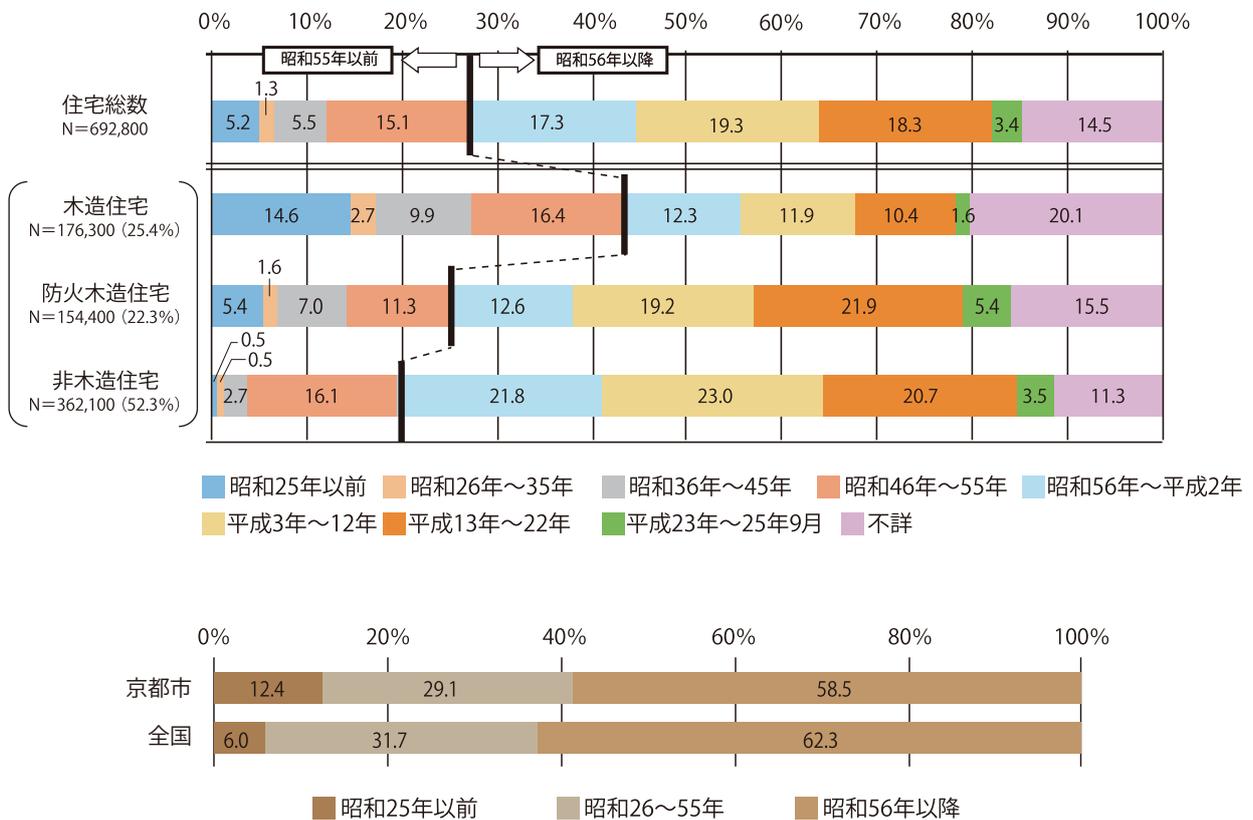


図 12.住宅建築の年代別状況

資料)総務省「住宅・土地統計調査」



図 13.各行政区における住宅建築の年代別状況

資料)総務省「住宅・土地統計調査」

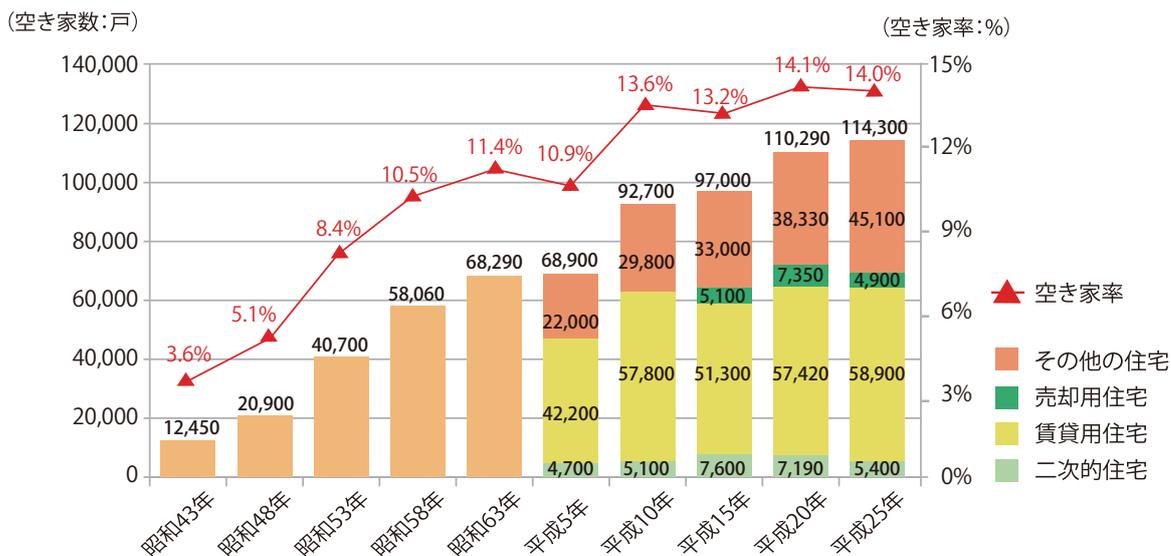


図 14.京都市の種類別の空き家数の推移

資料)総務省「住宅・土地統計調査」

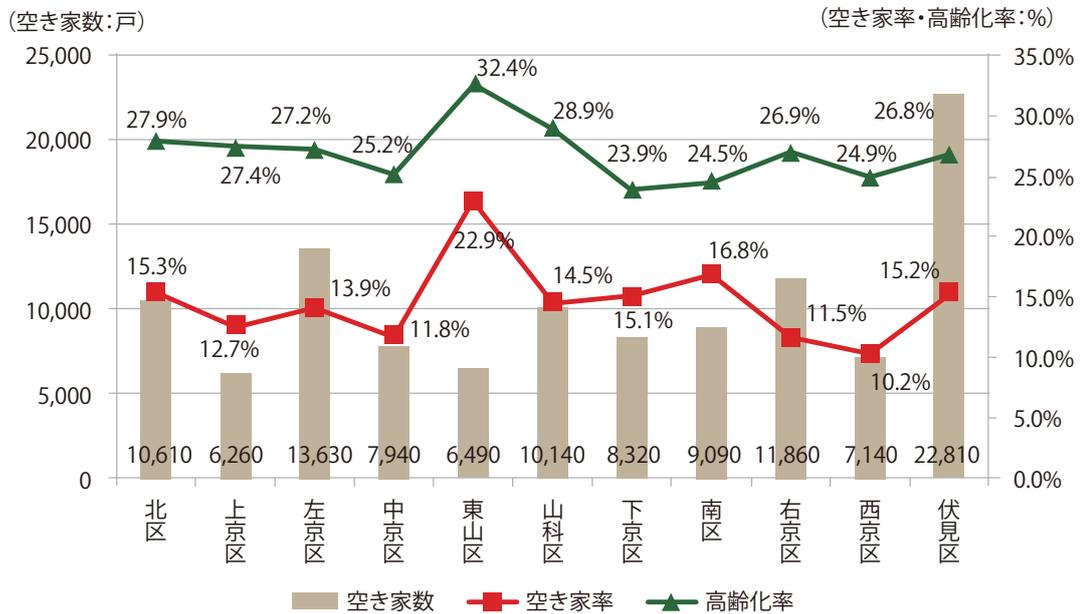


図 15.各行政区における空き家数, 空き家率, 高齢化率

資料)京都市「空き家等対策計画」

| | 空き家数 | 二次的住宅 | 賃貸用 | 売却用 | その他の住宅(※) (空き家数に占める割合) | | |
|-------|---------|-------|--------|-------|------------------------|-------|--------------|
| | | | | | 一戸建て | 長屋建て | 一戸建て・長屋建ての割合 |
| 京都市 | 114,300 | 5,400 | 58,900 | 4,900 | 45,100 (39.5%) | | |
| | | | | | 29,000 | 3,100 | 71.2% |
| 政令市平均 | 91,300 | 2,000 | 58,400 | 4,100 | 26,800 (29.4%) | | |
| | | | | | 13,700 | 1,500 | 56.7% |

※市場に流通していない空き家(二次的住宅(別荘など), 賃貸用, 売却用以外)

図 16.空き家の種類の政令市平均との比較

資料)総務省「住宅・土地統計調査(平成25年)」

(4) 日常生活に必要な施設(医療・福祉・商業)

- 日常生活に必要な医療, 福祉, 商業施設と基幹的交通路線(1日30本以上の鉄道・バス路線)の全てを徒歩圏で利用できる人口の割合は87%となっています。

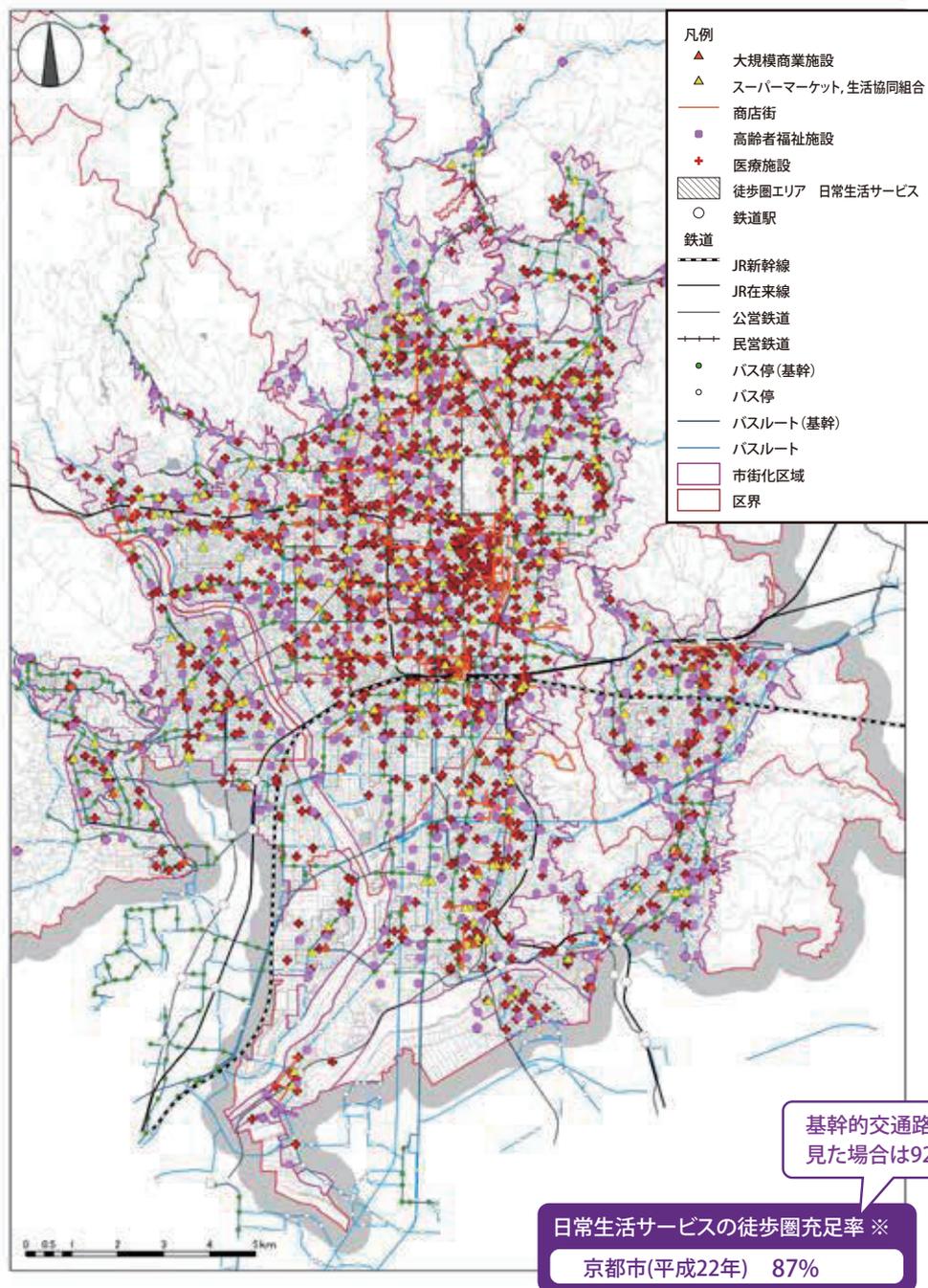


図 17. 日常生活サービス施設の立地状況, 基幹的交通路線の状況

(基幹的交通路線:1日30本以上の鉄道・バス路線)

資料) 大規模商業施設, スーパーマーケット, 生活協同組合は NTT タウンページ(株)「タウンページ」を, 商店街は「きょうは買い物日和(全行政区)」を, 高齢者福祉施設は国土交通省「国土数値情報(福祉施設データ)」を, 医療施設は国土交通省「国土数値情報(福祉施設データ)」を基に本市作成

※医療, 福祉, 商業と基幹的交通路線の全てを徒歩圏(施設及び鉄道駅:半径 800m 圏, バス停:半径 300m 圏で享受できる人口の比率)

(5) 産業・働く場

- 本市の市内総生産の構成比を政令市平均と比較すると、製造業のシェアが高くなっています。
- 市内の工業地域、工業専用地域における土地利用では、市西部のJR北側、上鳥羽・吉祥院エリアでは専用住宅の比率が高く、上鳥羽・吉祥院エリアでは商業業務の割合も高くなっています。
- 市南部の久我・羽束師、横大路エリアでは、工業施設の利用比率が高く、使用容積率も低くなっています。
- JR北側、上鳥羽・吉祥院エリアでは、工業施設の比率は微増又は減少する一方で、専用住宅・商業業務の比率は、大幅に増加しています。
- 全てのエリアでは、専用住宅・商業業務の延べ床面積が大きく増加しています。
- 市外へ移転した工場等は、移転後の敷地面積の増加率が大きくなっています(平均5.6倍)。
- この10年間で市内常住者のうち、市内での就業者が減少(-15%)する一方、市外での就業者が増加(+65%)しています。

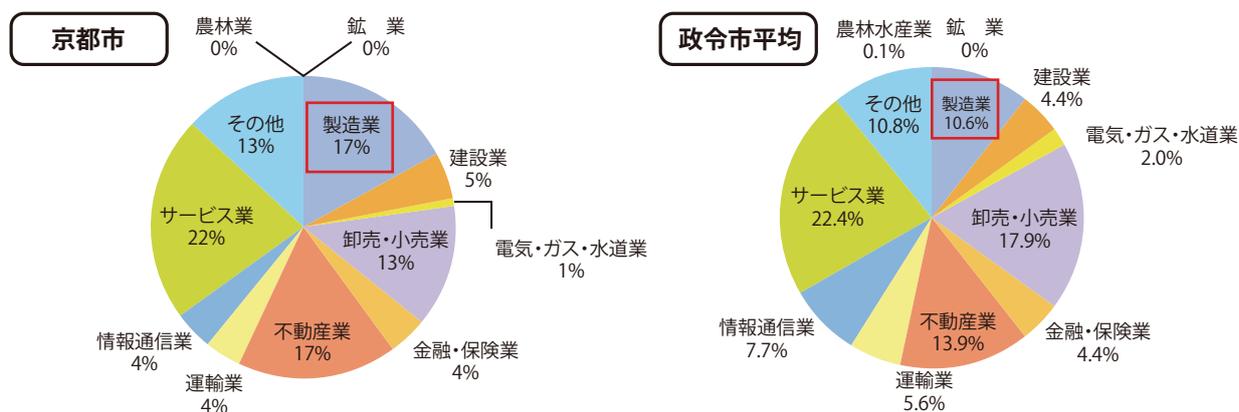
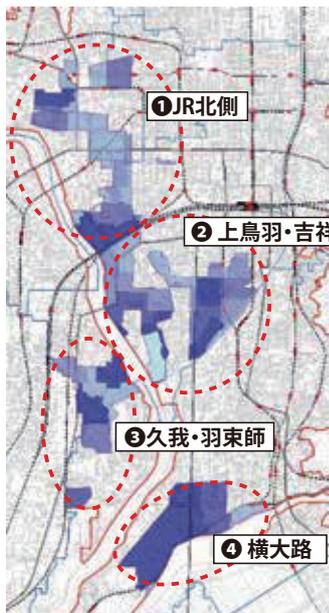
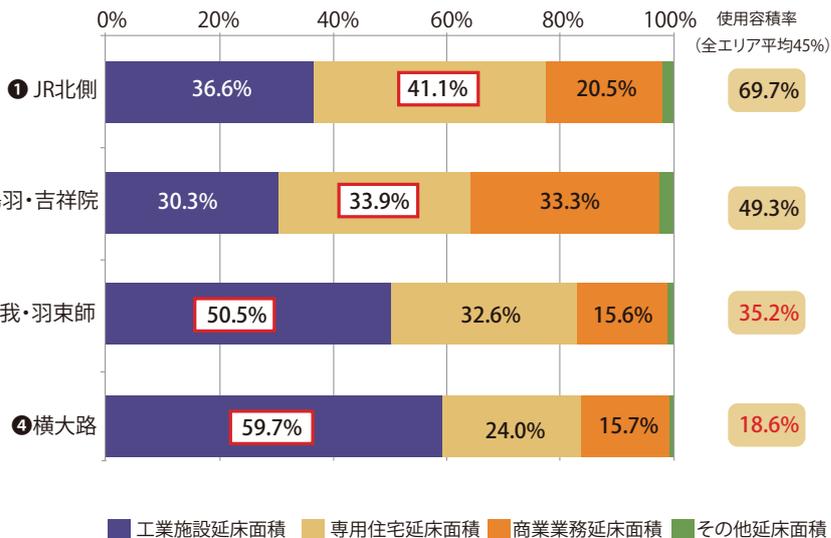


図 18. 京都市の市内総生産の構成比

資料)各市「市民経済計算(平成26年度)」



工業施設の土地利用の割合(延床面積比)



※本検討の対象エリアは、土地利用現況調査地区のうち、主に工業地域及び工業専用地域が含まれる地区としている。
 ※使用容積率は、各エリアの敷地面積に対する建物の延床面積の割合

図 19. 工業・工業専用地域における用途混在の状況

資料) 京都市「土地利用現況調査資料(平成28年)」を基に本市作成

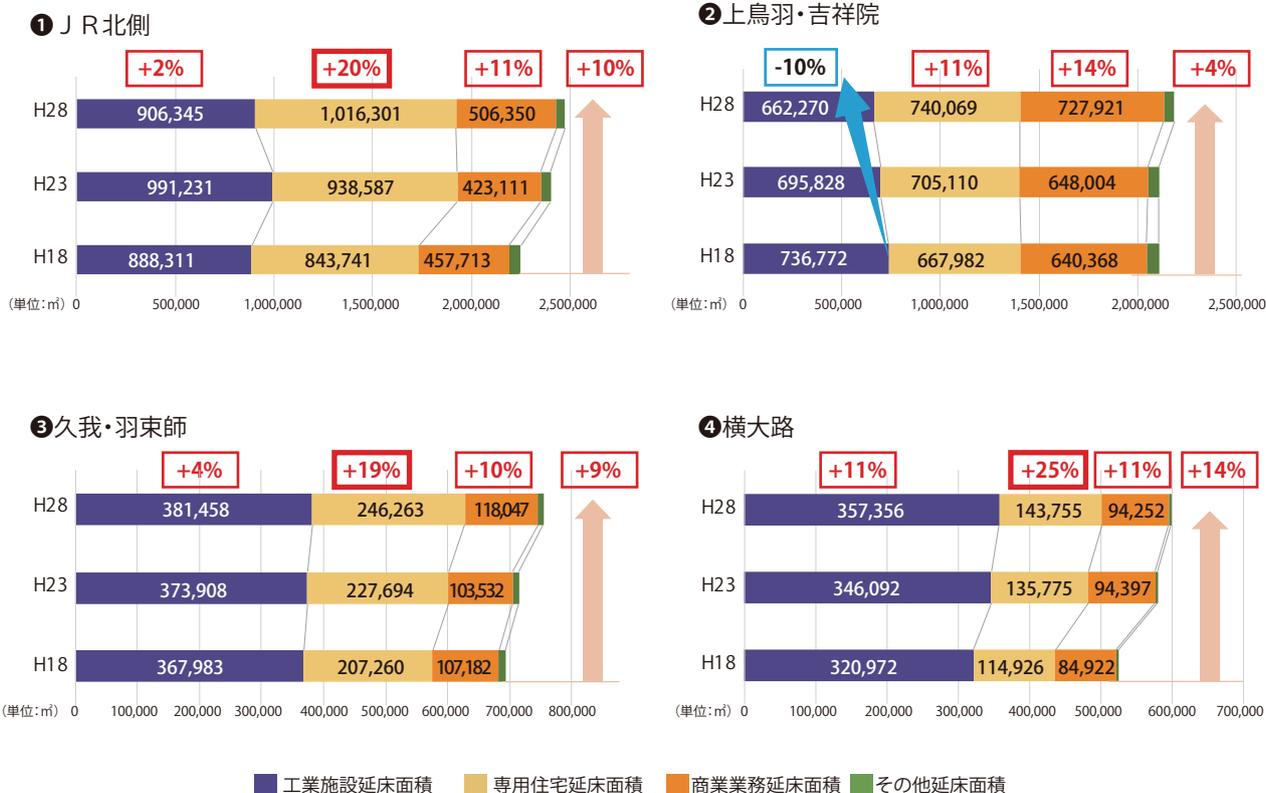
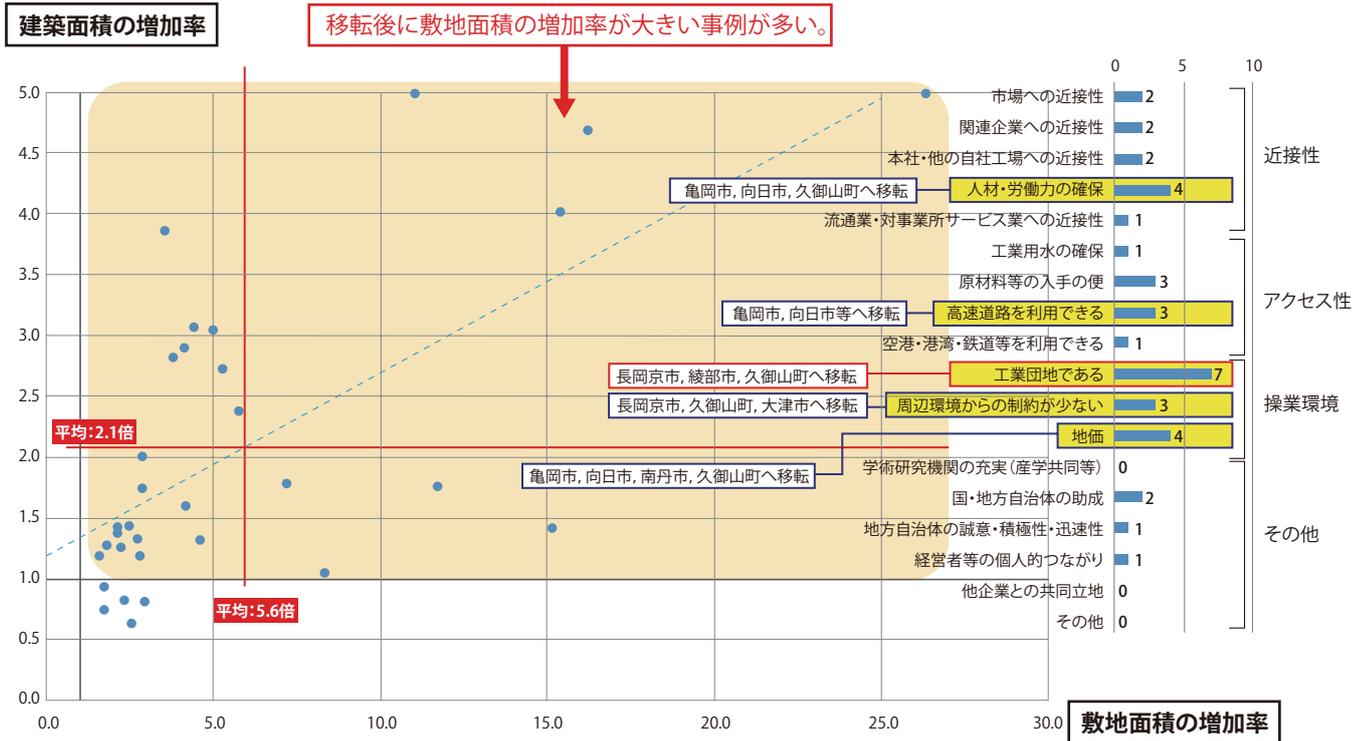


図 20. 工業・工業専用地域における用途混在の推移

資料) 京都市「土地利用現況調査資料(平成18年,平成23年,平成28年)」を基に本市作成



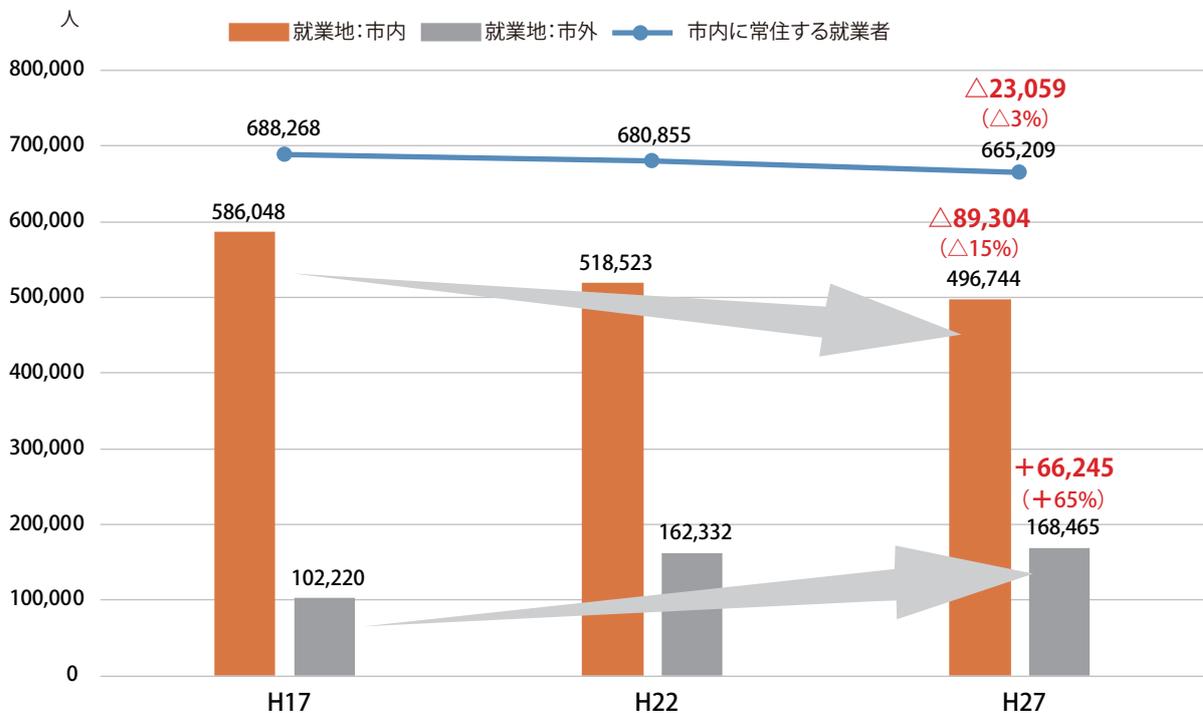
※工場立地動向調査は、製造業、電気業、ガス業、熱供給業の用に供する工場又は研究所を建設する目的を持って、1,000㎡以上の用地(埋立予定地を含む。)を取得(借地を含む。)した案件を対象としている。

※本資料は上記調査に対し回答があった案件のうち、工場等を移転したもので、移転前後の敷地面積及び建築面積、移転理由が記載されているもののみを抽出した。

※右欄の移転理由は平成19年～平成28年分を掲載した。

図 21.工場等の移転に係る規模・選定理由(京都市→京都市外)

資料)経済産業省「工場立地動向調査(平成2年～平成28年)」を基に本市作成



※「就業地:市外」及び「市内に常住する就業者」には就業地不詳を含めて集計

図 22.市内に常住する従業者(15歳以上)の就業地の変化

資料)総務省「国勢調査(平成17年,平成22年,平成27年)」

(6) 商業・業務

- 本市の小売事業所数は、減少しているものの、政令市平均と比べて市民千人当たりの事業所数は多くなっています。
- 本市におけるテナントビルの空室率は、大阪・神戸地区に比べて低く、平均賃料は高くなっています。また、延床面積が1,000坪以上のテナントビルは、平成23年度以降、新規の供給が止まっています。

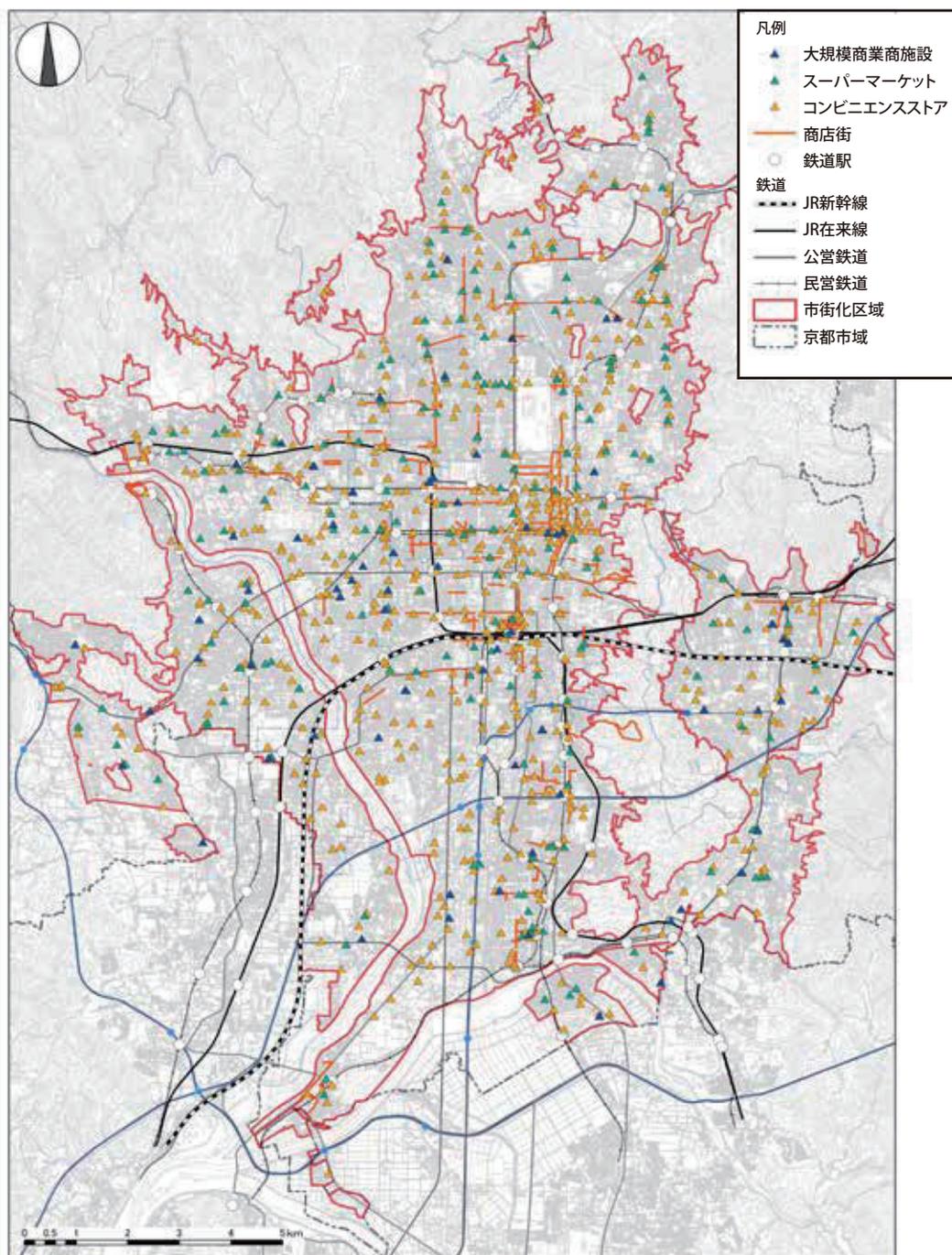


図 23. 商業施設の分布状況

資料) NTTタウンページ(株)「iタウンページ」に掲載の大規模商業施設、スーパーマーケット、コンビニエンスストアを基に本市作成

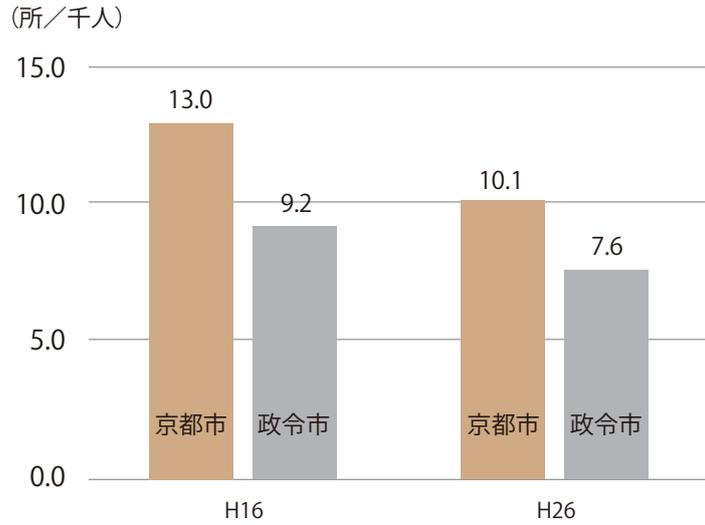
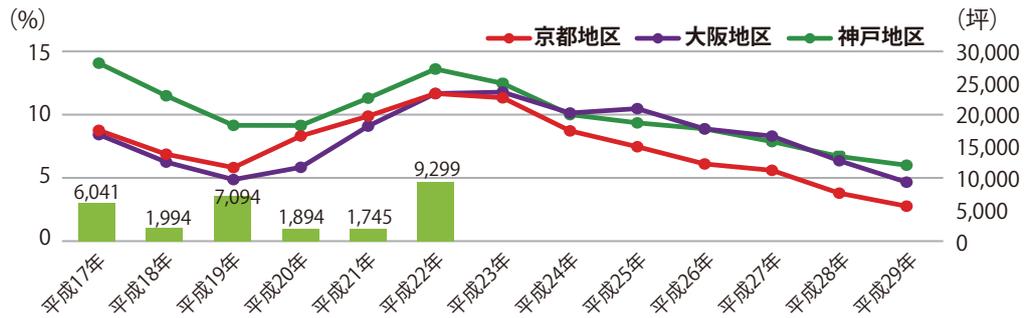


図 24. 市民千人当たりの小売事業所数

資料) 総務省「平成16年商業統計調査」,
 総務省「平成26年経済センサス基礎調査」,
 総務省「住民基本台帳」から本市作成

空室率



※棒グラフ(右軸)は、京都市内における延床面積1,000坪以上のテナントビルの供給量の推移(自社ビル、自社貸し、一棟貸し等は含まない。)

平均賃料



※棒グラフ(右軸)は、京都市内における延床面積1,000坪以上のテナントビルの供給量の推移(自社ビル、自社貸し、一棟貸し等は含まない。)

図 25. テナントビルの空室率と平均賃料の推移

資料) 三鬼商事「オフィスレポートバックナンバー」

(7) 大学の状況

- ・ 市内に38の大学や短期大学が広範囲に立地し、公共交通の徒歩圏で利便性が高い分布となっています。
- ・ 学生数は近年増加しており、約14万人と、人口に対する割合が10%となっているほか、留学生数も年々増加しています。
- ・ 学生の多くは、大学卒業後、市外へ転出する傾向にあります。

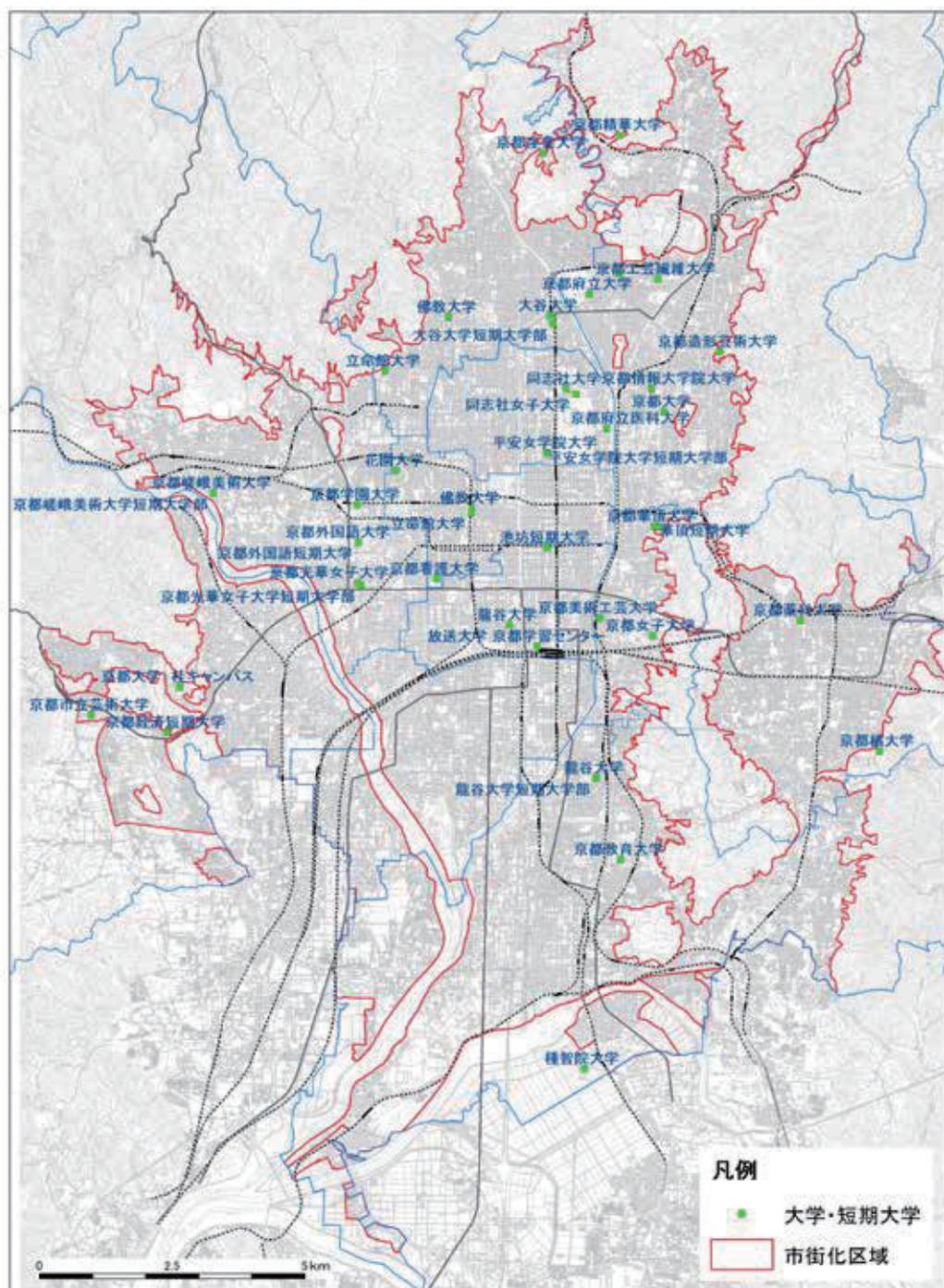


図 26.大学・短期大学の立地状況

資料)国土交通省「国土数値情報(学校データ)」

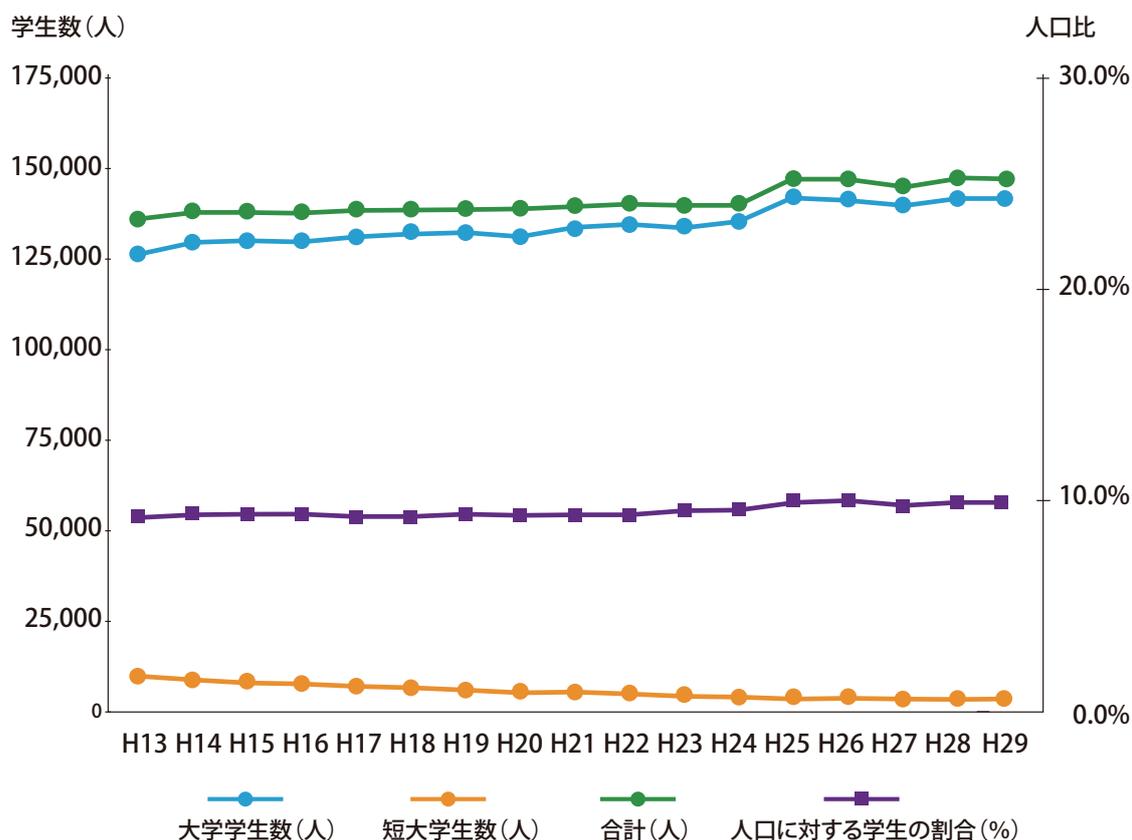


図 27.学生数の推移

資料)文部科学省「学校基本調査」

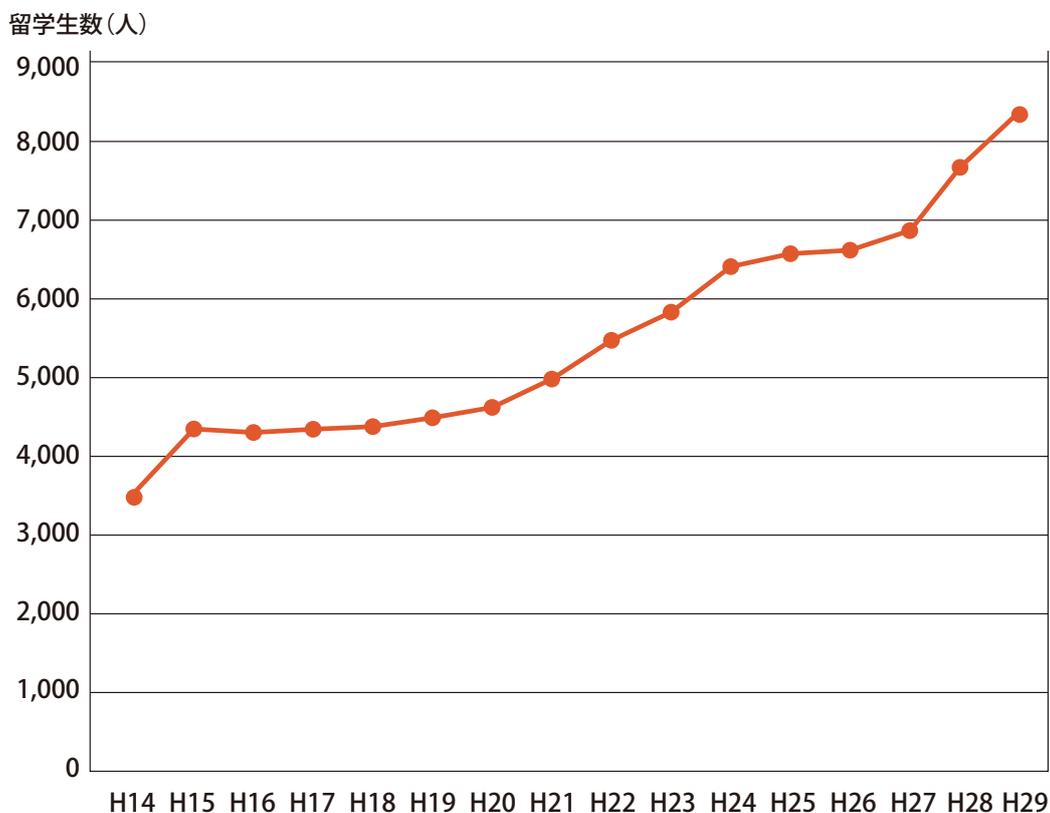


図 28.留学生数の推移

資料)日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

(8) 観光

- ・ 観光客数は、年間約5千万人以上が本市を訪問しています。
- ・ 訪問先は、清水・祇園周辺や、京都駅周辺、嵐山、金閣寺周辺に集中しており、外国人は、それに加え、二条城、伏見稲荷大社に多く訪問しています。

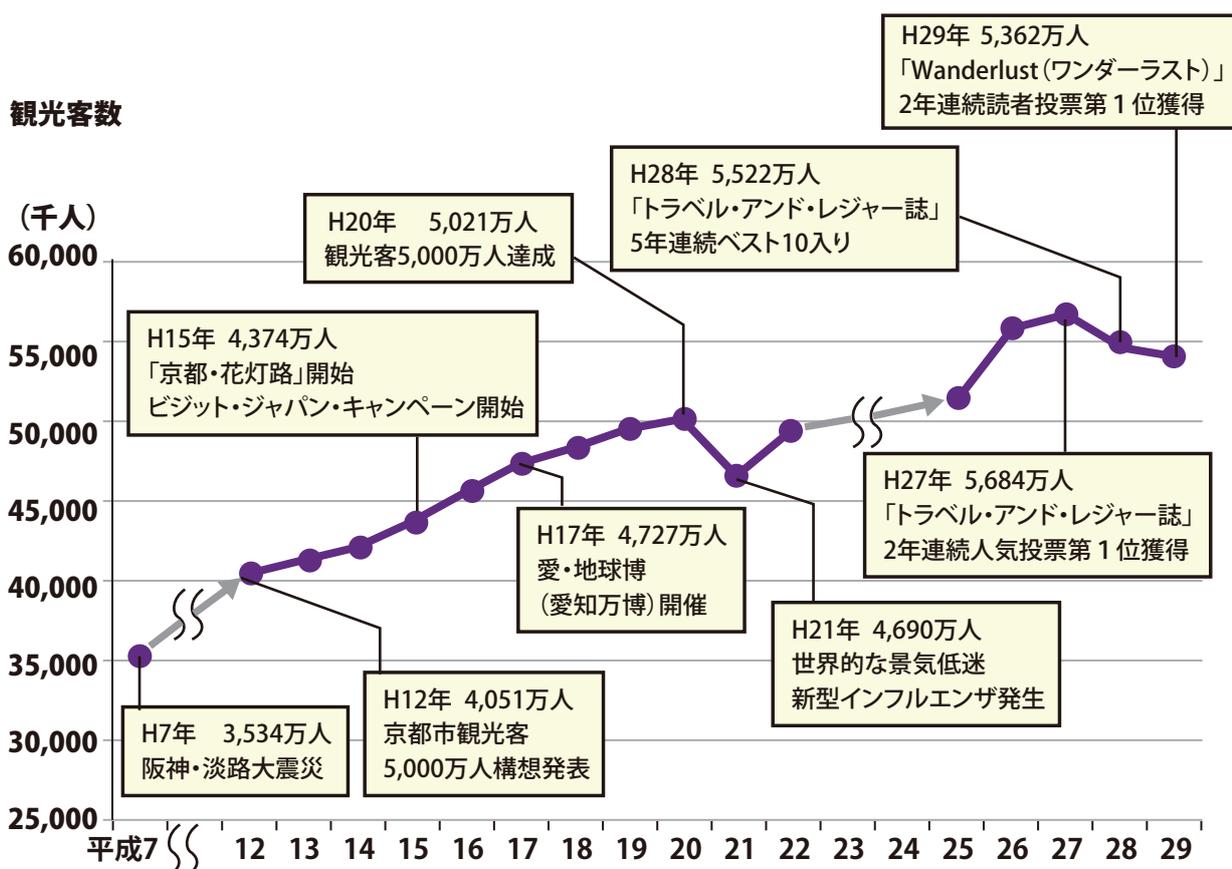
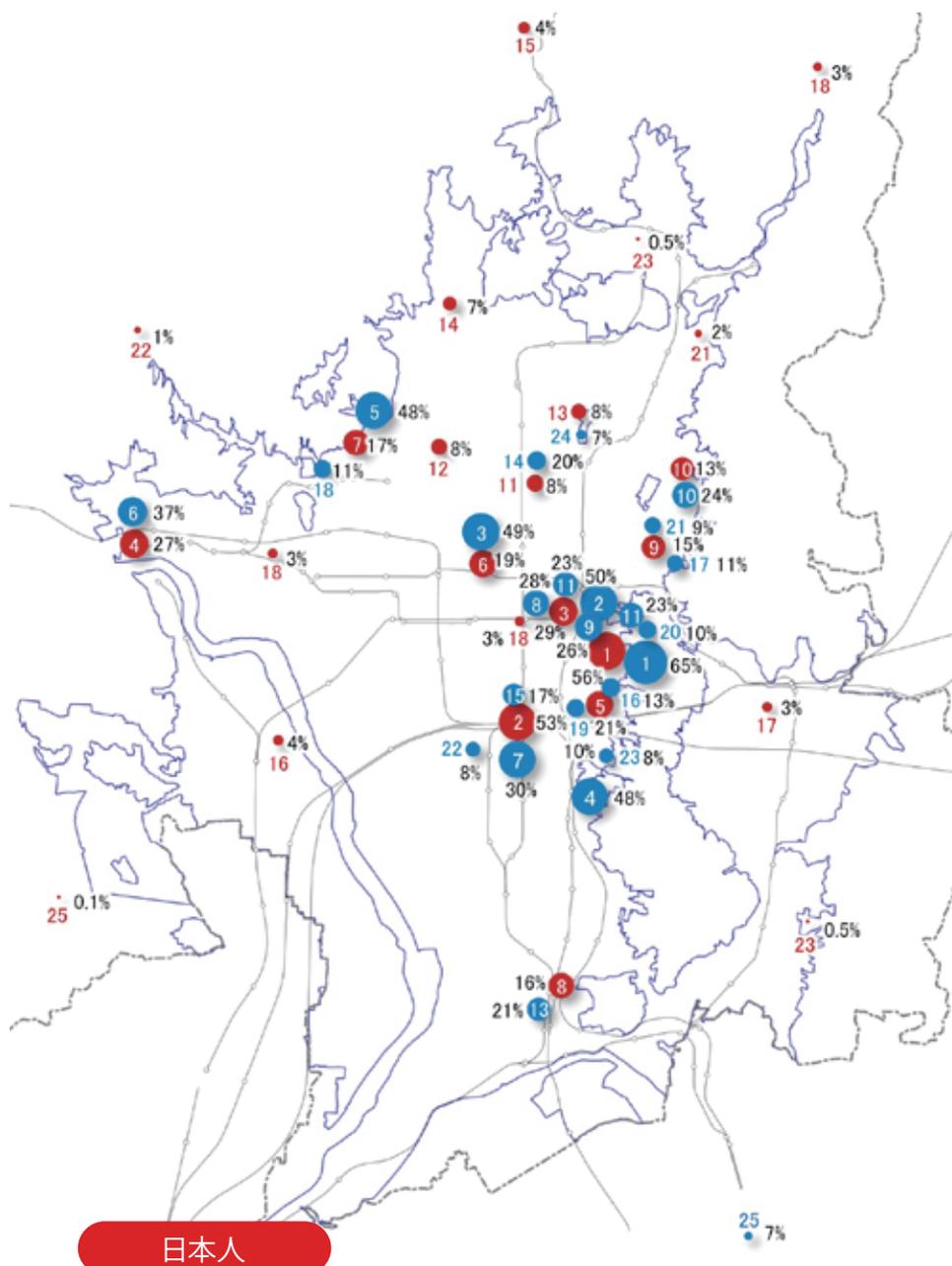


図 29.観光客数の推移

資料) 京都市「平成29年京都観光総合調査」



外国人

- 順位 訪問地
- 1 清水寺
 - 2 祇園
 - 3 二条城
 - 4 伏見稻荷大社
 - 5 金閣寺
 - 6 嵐山・嵯峨野
 - 7 京都駅周辺
 - 8 錦市場
 - 9 ギオンコーナー
 - 10 銀閣寺
 - 11 { 八坂神社
河原町・四条周辺
 - 13 伏見
 - 14 京都御所
 - 15 京都タワー
 - 16 東山
 - 17 南禅寺
 - 18 龍安寺
 - 19 三十三間堂
 - 20 高台寺
 - 21 平安神宮
 - 22 東寺
 - 23 東福寺
 - 24 下鴨神社
 - 25 宇治

日本人

- 順位 訪問地
- | | | |
|-------------------|----------------|--------------|
| 1 清水・祇園周辺 | 11 京都御所周辺 | 21 一乗寺・修学院周辺 |
| 2 京都駅周辺 | 12 西陣・北野周辺 | 22 高雄周辺 |
| 3 河原町三条・四条周辺 | 13 下鴨・北山周辺 | 23 岩倉周辺 |
| 4 嵯峨嵐山周辺 | 14 上賀茂・鷹峯・紫野周辺 | 24 醍醐周辺 |
| 5 東山七条周辺 | 15 鞍馬・貴船周辺 | 25 大枝・大原野周辺 |
| 6 二条城・壬生周辺 | 16 松尾・桂周辺 | |
| 7 きぬかけの路周辺 | 17 山科周辺 | |
| 8 伏見周辺 | 18 { 大原・八瀬周辺 | |
| 9 岡崎・蹴上周辺 | 烏丸御池・烏丸四条周辺 | |
| 10 銀閣寺・哲学の道・百万遍周辺 | 太秦・花園周辺 | |

図 30.交流人口・観光客の訪問先
資料)京都市「平成 29 年京都観光総合調査」

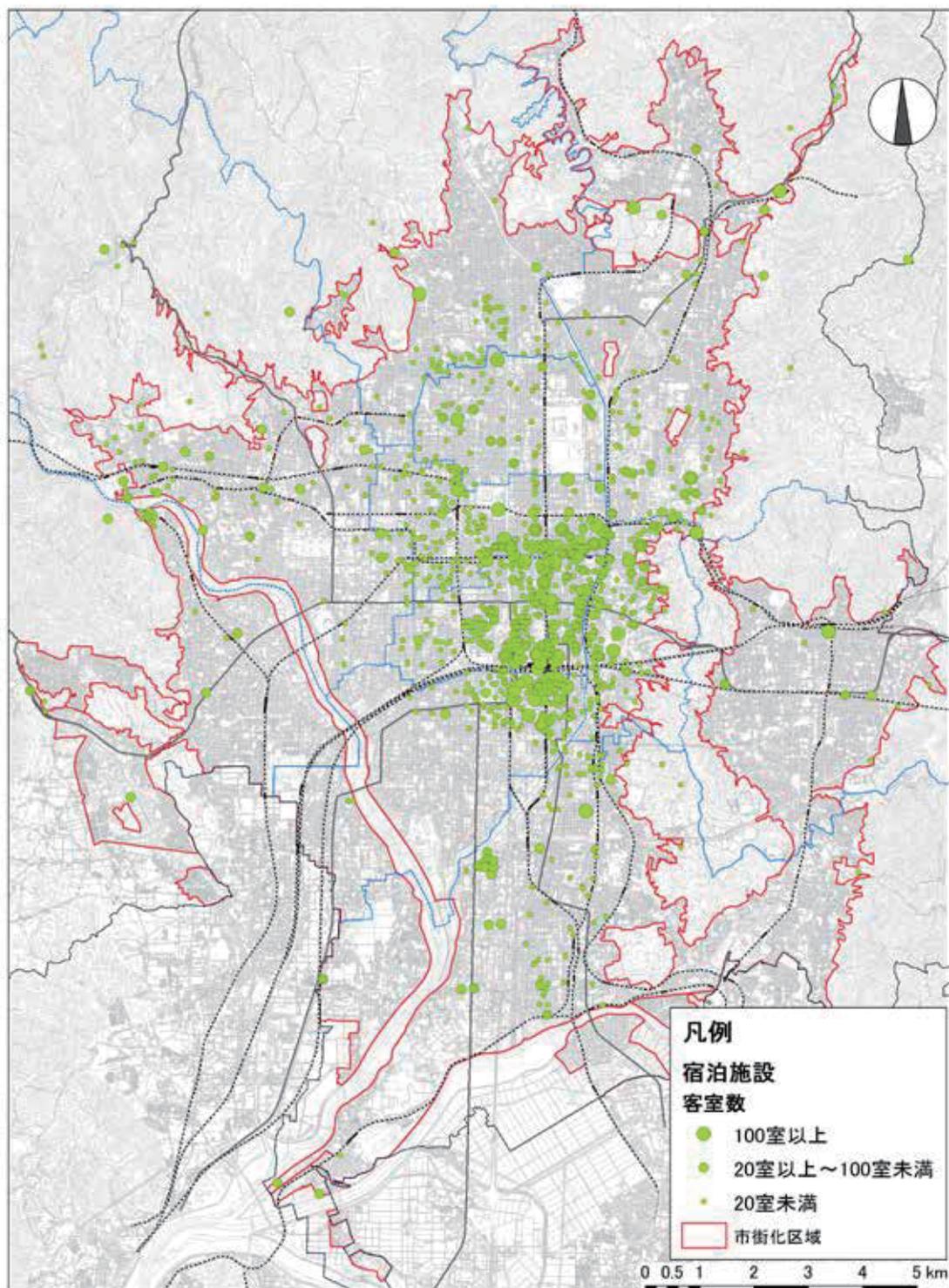


図 31. 宿泊施設の立地状況

資料) 京都市「旅館業許可台帳」を基に本市作成

(9) 文化

- 京都市内には、世界遺産を含む数多くの国宝や重要文化財、京町家などの歴史・文化資源が数多く残されています。

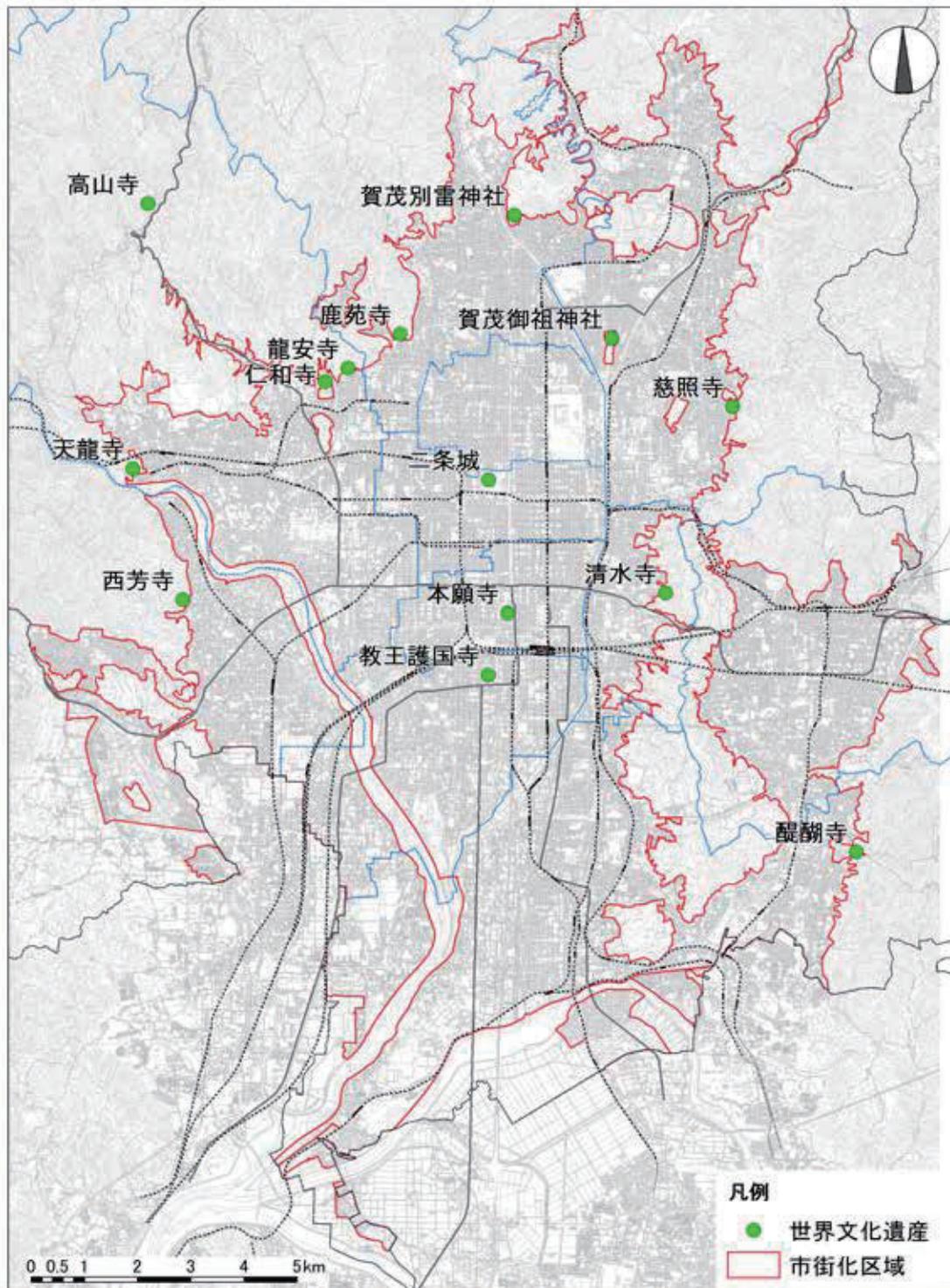


図 32.世界文化遺産

資料) 国土交通省「国土数値情報(世界文化遺産データ)」

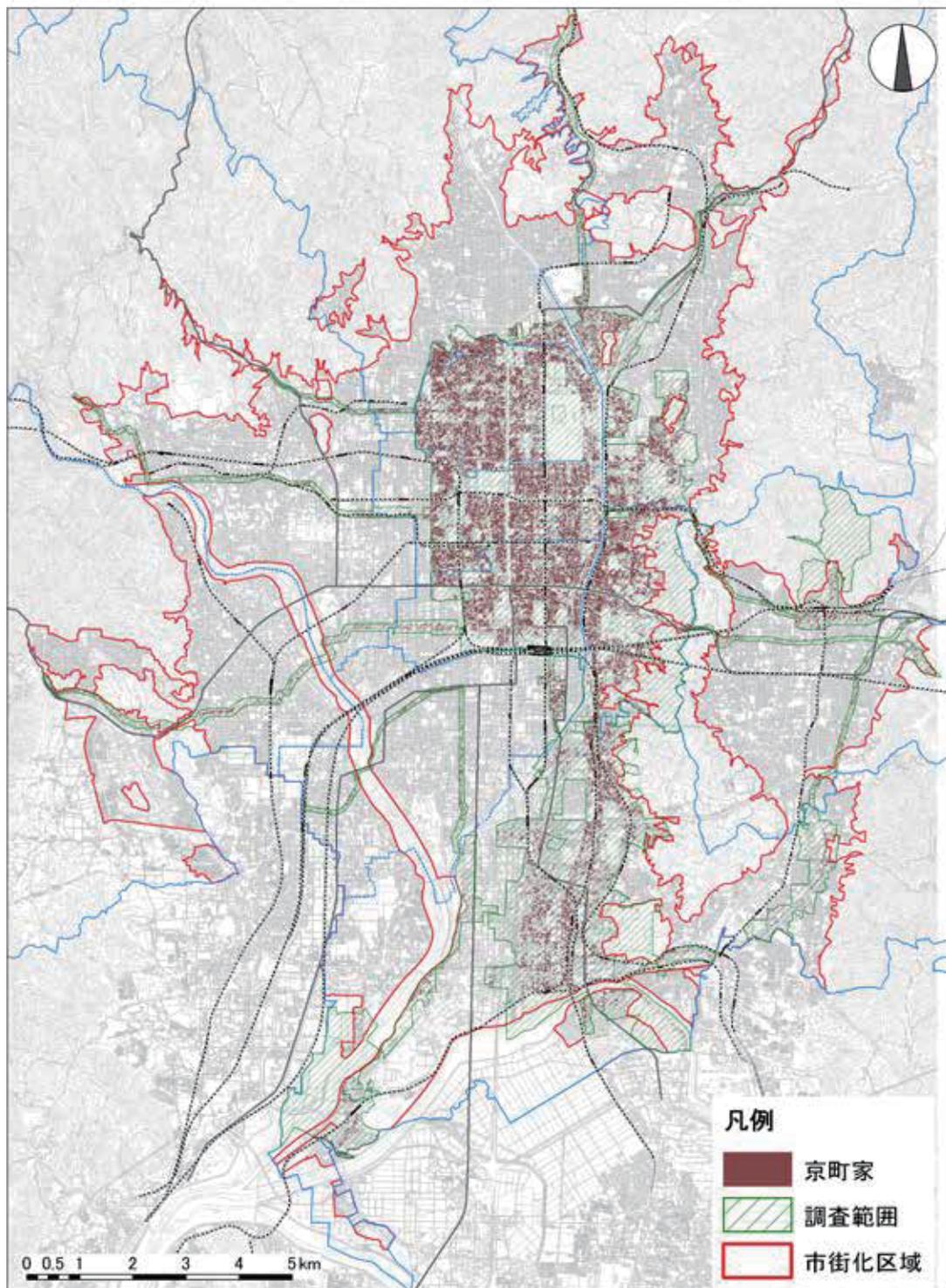


図 33.京町家の分布状況

資料)京都市・財団法人京都市景観まちづくりセンター、立命館大学「平成20・21年度京町家まちづくり調査」

(10) 公共交通

- 本市では、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の取組が進められており、地下鉄・市バスの利用者数は、近年、増加傾向となっています。
- 本市における代表交通手段分担率は、10年前と比較すると、自動車の分担率が減少し、鉄道・バスを合わせた公共交通が最も多くを占めています。
- 居住地から最寄りの鉄道駅・バス停へ到達し、待ち時間も含めて乗車するまでに要する時間は、居住人口の70%が15分以内、96%が30分以内となっています。また、運行頻度が多い鉄道路線及びバス路線の徒歩圏人口カバー率も92%と高く、日常生活を支える公共交通ネットワークが整備されています。
- 一方で、観光客の一部地域への集中によるバスの混雑など、定住人口と交流人口との調和が課題となっています。

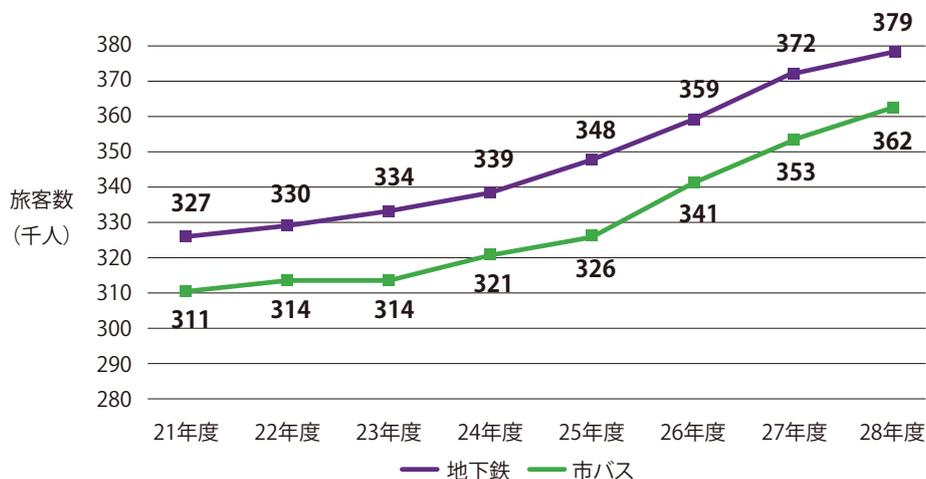


図 34.公共交通の旅客数の推移

資料)京都市「交通事業白書(年度別旅客数の推移・平成26年度まで)」「交通事業白書(平成26年以降)」

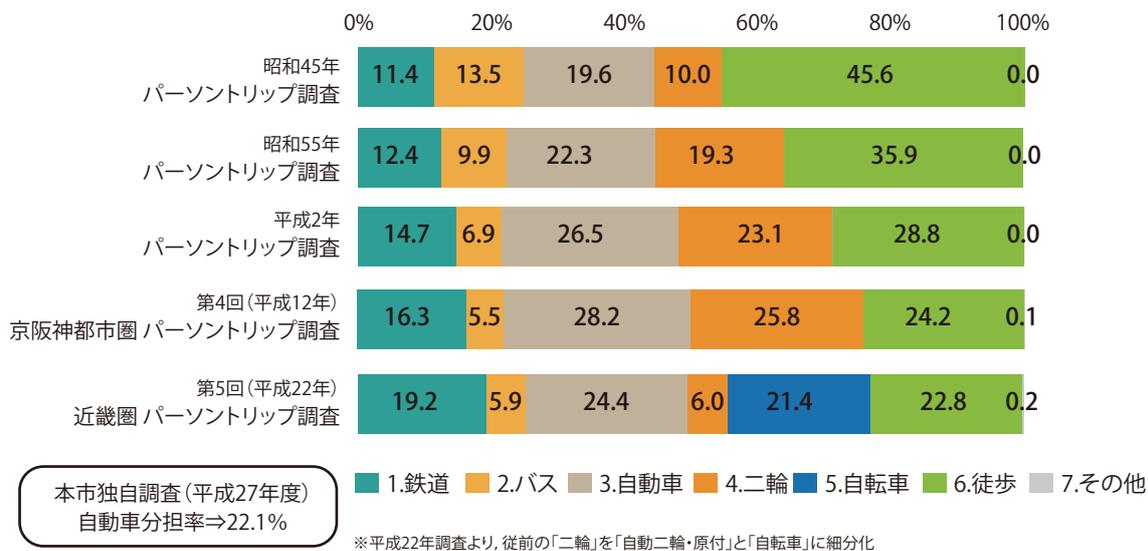


図 35.代表交通分担率(平日)の推移

資料)国土交通省「京阪神都市圏パーソントリップ調査」「近畿圏パーソントリップ調査」

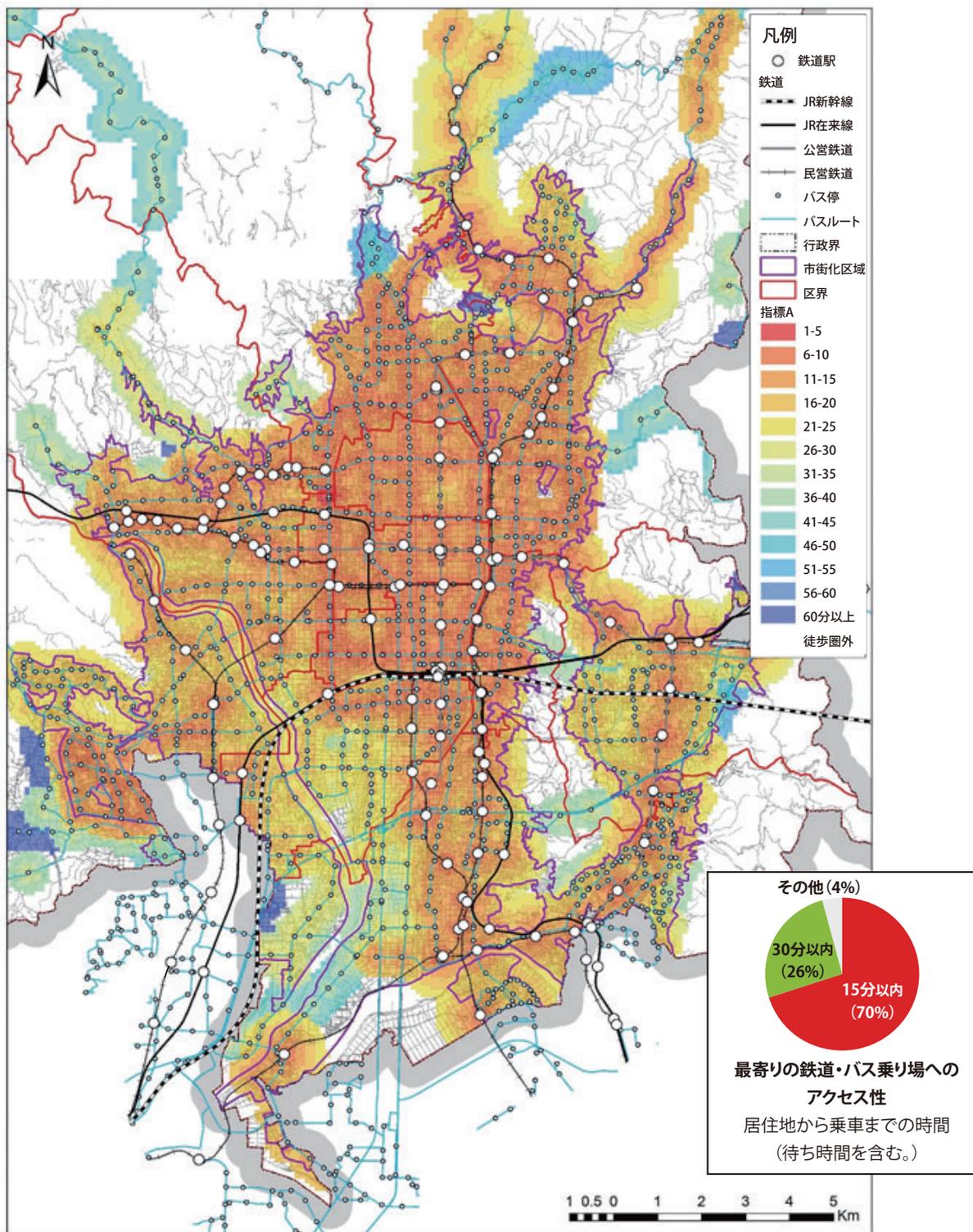


図 36.最寄りの鉄道駅、バス停へのアクセス性

資料)国土交通省「アクセシビリティ指標活用の手引き(案)」を基に本市作成

(11) 京都市水害ハザードマップ

- ・ 土砂災害警戒区域については、三方の山々の麓や、山間部などで指定された区域が存在しています。
- ・ 浸水想定区域については、桂川・宇治川・鴨川・山科川などの流域の市街地が広範囲に含まれています。

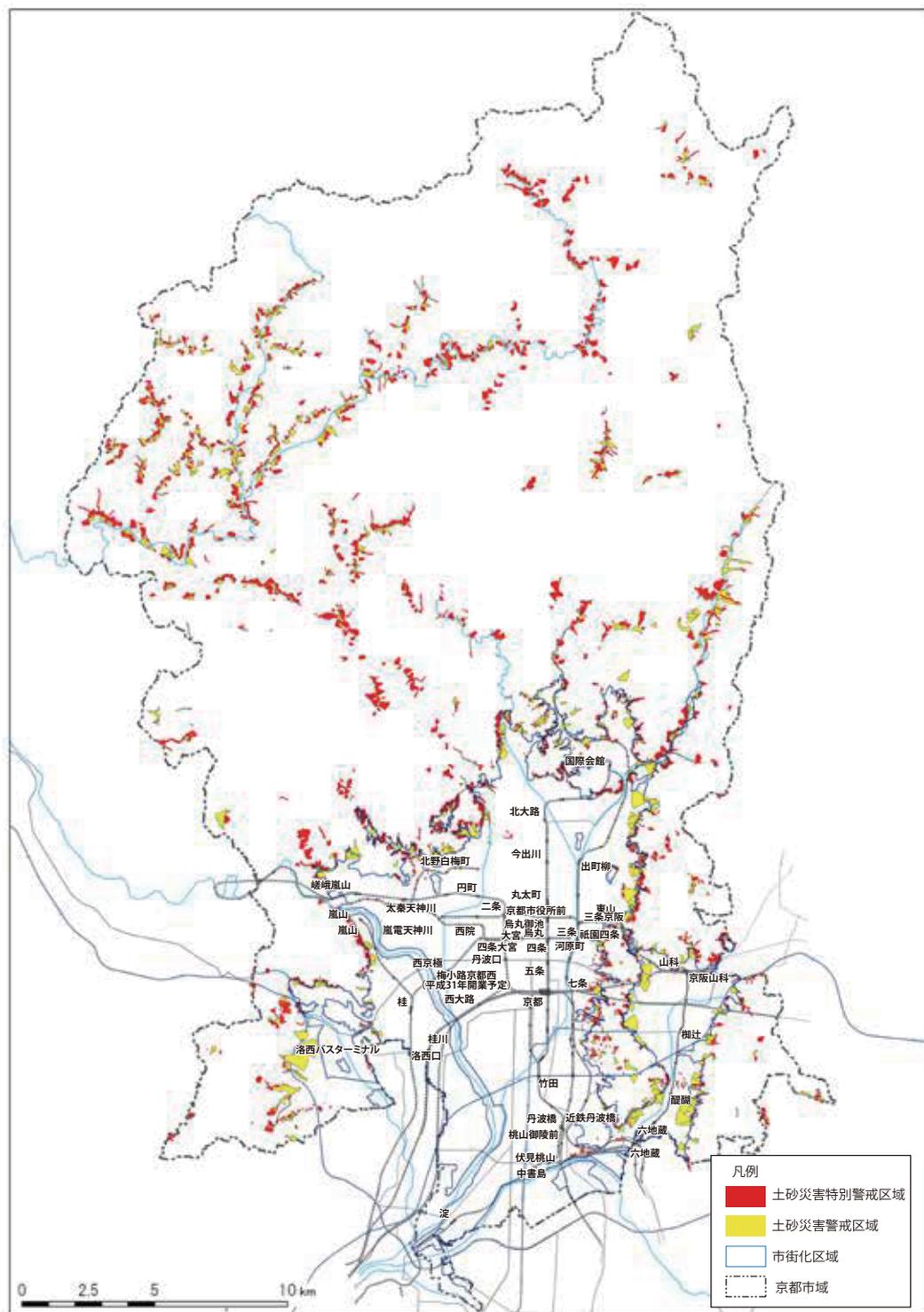


図37. 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域

資料) 京都市水害ハザードマップ(発行平成30年5月)

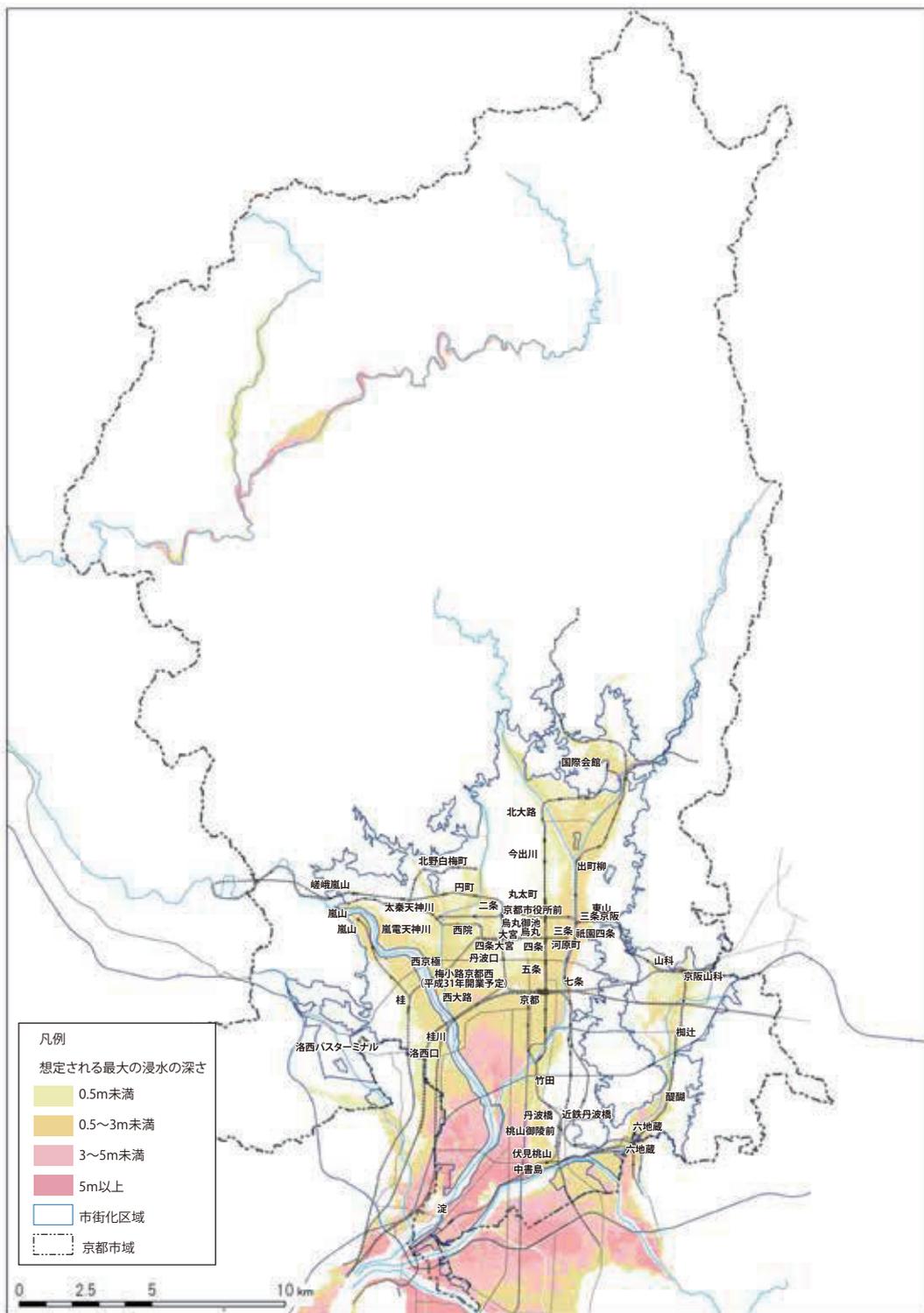


図 38. 浸水想定区域

資料)京都市水害ハザードマップ(発行平成30年5月)



京都市はSDGsを支援しています。



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収などへ!



京都市都市計画局都市企画部都市計画課